

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」 の調査結果及び授業改善のポイントについて

－ 東京都教育委員会実施調査 －

1	調査の目的	1
2	調査の対象	1
3	調査方法及び調査教科等	1
4	調査実施日	1
5	調査結果の活用	1

調 査 結 果 及 び 授 業 改 善 の ポ イ ン ト

参考文献：東京都教育委員会発行「平成24年度児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」

1 小学校第5学年

(1)	各教科・合計平均正答率	4
(2)	各教科・観点別平均正答率	5
(3)	各教科・読み解く力の観点別平均正答率	6
(4)	各教科正答数分布	7
(5)	各問題の正答率	8
(6)	各教科の分析	12

2 中学校第2学年

(1)	各教科・合計平均正答率	18
(2)	各教科・観点別平均正答率	19
(3)	各教科・読み解く力の観点別平均正答率	20
(4)	各教科正答数分布	21
(5)	各問題の正答率	22
(6)	各教科の分析	27

平成25年3月22日

武蔵村山市教育委員会

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」 (都調査)の結果について

1 調査の目的

- (1) 児童・生徒一人一人に確かな学力の定着と伸長を図る。
- (2) 各教科の目標や内容の実現状況を把握し、指導方法の改善に生かす。

2 調査の対象

☆ 調査の対象学年及び対象児童・生徒数（実施児童・生徒数）

- ☐ 都内公立小学校 第5学年（全 校） 1, 3 0 4校 9 1, 1 8 6名
市立小学校 第5学年（全 校） 9校 7 4 3名
- ☐ 都内公立中学校 第2学年（全 校） 6 3 1校 7 4, 3 6 9名
市立中学校 第2学年（全 校） 5校 6 2 8名

3 調査方法及び調査教科等

調査方法	調査教科（内容）等
☐ 調査票 （ペーパーテスト形式）	☐ 児童・生徒の学力向上を図るための調査 ○ 小学校第5学年・・・国語、社会、算数、理科 ○ 中学校第2学年・・・国語、社会、数学、理科、 外国語〈英語〉
☐ 質問紙形式	☐ 学習に関する意識調査

4 調査実施日

平成24年7月5日（木）

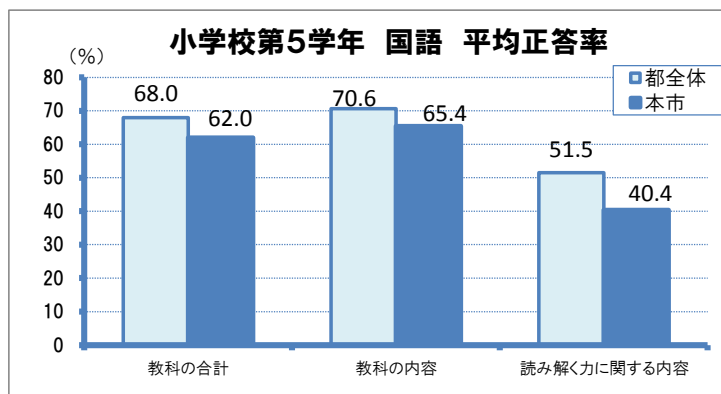
5 調査結果の活用

児童・生徒一人一人の学習状況の改善に役立てるとともに、各学校における授業の改善、市における学力向上のための施策の充実に役立てる。

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査）
 小学校第5学年【各教科・合計】平均正答率

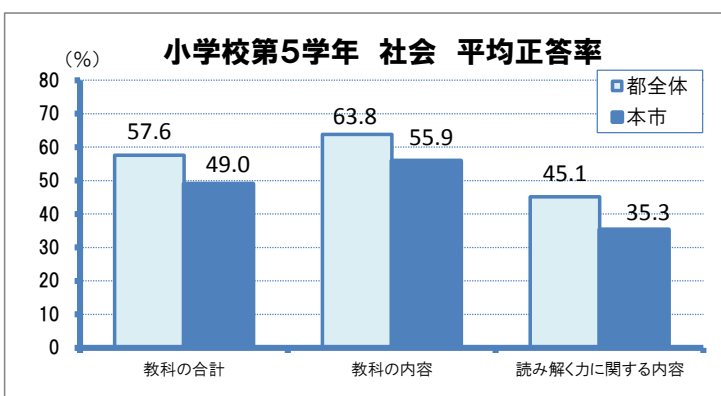
1 小学校5年 国語 平均正答率 (%)

	24年度		
	教科の合計	教科の内容	読み解く力に関する内容
都 全 体	68.0	70.6	51.5
本 市	62.0	65.4	40.4



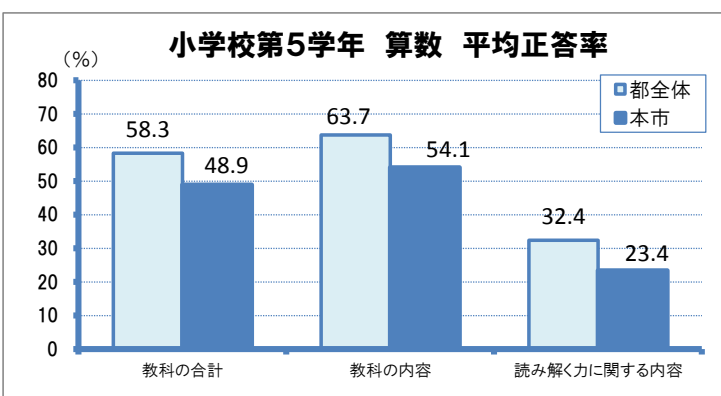
2 小学校5年 社会 平均正答率 (%)

	24年度		
	教科の合計	教科の内容	読み解く力に関する内容
都 全 体	57.6	63.8	45.1
本 市	49.0	55.9	35.3



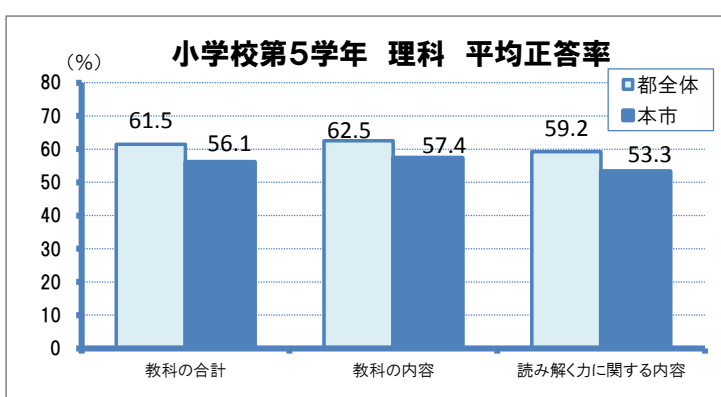
3 小学校5年 算数 平均正答率 (%)

	24年度		
	教科の合計	教科の内容	読み解く力に関する内容
都 全 体	58.3	63.7	32.4
本 市	48.9	54.1	23.4



4 小学校5年 理科 平均正答率 (%)

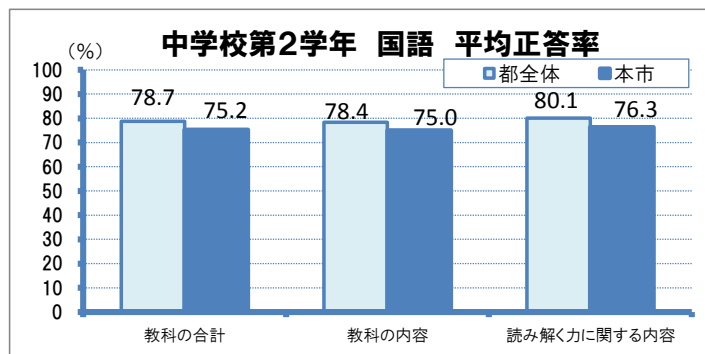
	24年度		
	教科の合計	教科の内容	読み解く力に関する内容
都 全 体	61.5	62.5	59.2
本 市	56.1	57.4	53.3



平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査） 中学校第2学年【各教科・合計】平均正答率

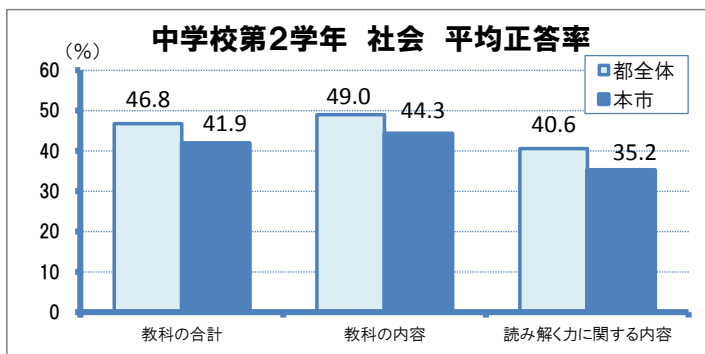
1 中学校2年 国語 平均正答率 (%)

	24年度		
	教科の合計	教科の内容	読み解く力に関する内容
都 全 体	78.7	78.4	80.1
本 市	75.2	75.0	76.3



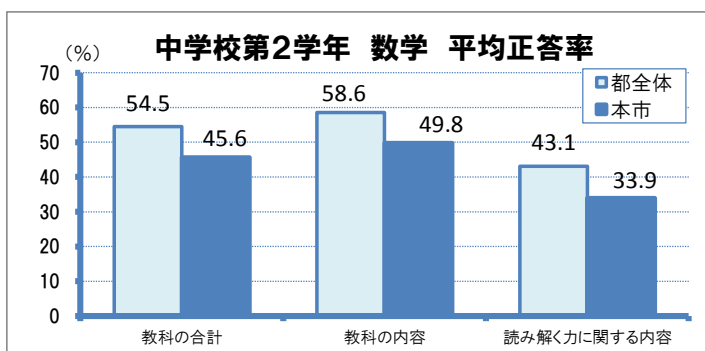
2 中学校2年 社会 平均正答率 (%)

	24年度		
	教科の合計	教科の内容	読み解く力に関する内容
都 全 体	46.8	49.0	40.6
本 市	41.9	44.3	35.2



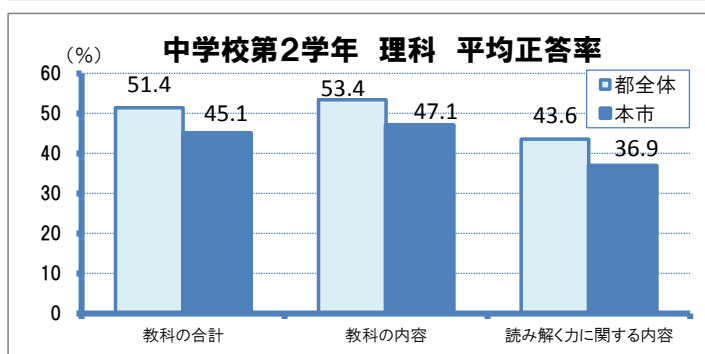
3 中学校2年 数学 平均正答率 (%)

	24年度		
	教科の合計	教科の内容	読み解く力に関する内容
都 全 体	54.5	58.6	43.1
本 市	45.6	49.8	33.9



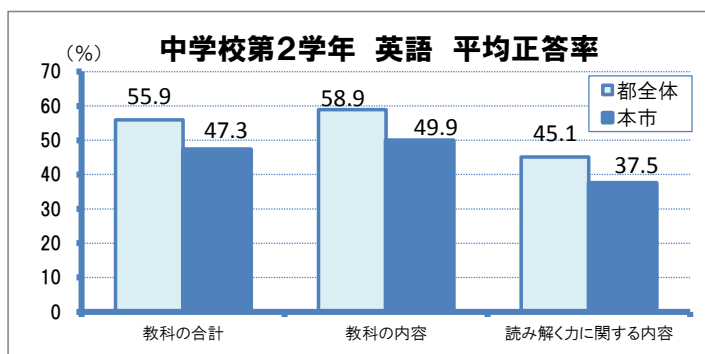
4 中学校2年 理科 平均正答率 (%)

	24年度		
	教科の合計	教科の内容	読み解く力に関する内容
都 全 体	51.4	53.4	43.6
本 市	45.1	47.1	36.9



5 中学校2年 英語 平均正答率 (%)

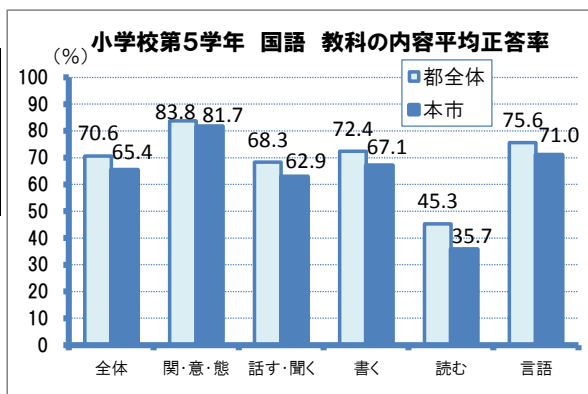
	24年度		
	教科の合計	教科の内容	読み解く力に関する内容
都 全 体	55.9	58.9	45.1
本 市	47.3	49.9	37.5



平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査） 小学校第5学年【各教科・観点別】平均正答率

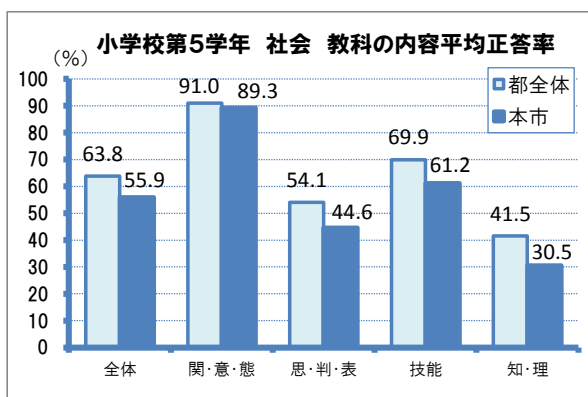
1 小学校第5学年 国語 教科の内容平均正答率 (%)

	24年度					
		関・意・態	話す・聞く	書く	読む	言語
都全体	70.6	83.8	68.3	72.4	45.3	75.6
本市	65.4	81.7	62.9	67.1	35.7	71.0



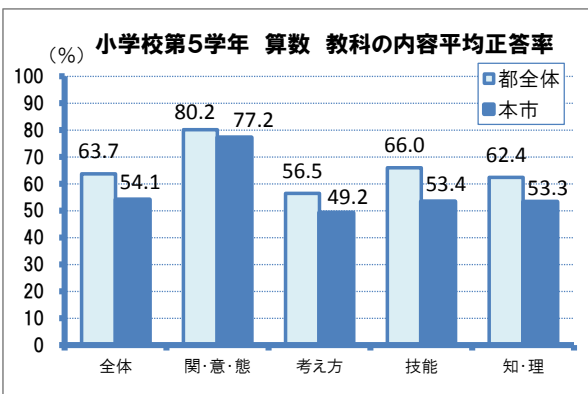
2 小学校第5学年 社会 教科の内容平均正答率 (%)

	24年度				
		関・意・態	思・判・表	技能	知・理
都全体	63.8	91.0	54.1	69.9	41.5
本市	55.9	89.3	44.6	61.2	30.5



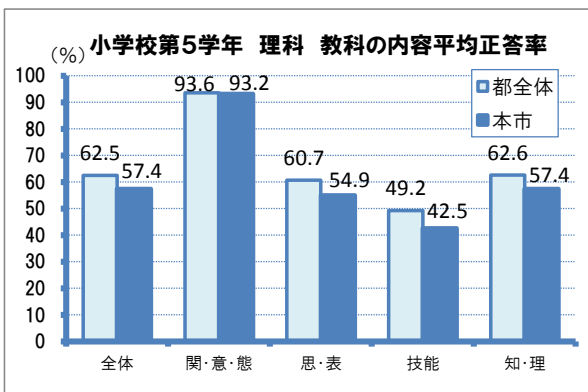
3 小学校第5学年 算数 教科の内容平均正答率 (%)

	24年度				
		関・意・態	考え方	技能	知・理
都全体	63.7	80.2	56.5	66.0	62.4
本市	54.1	77.2	49.2	53.4	53.3



4 小学校第5学年 理科 教科の内容平均正答率 (%)

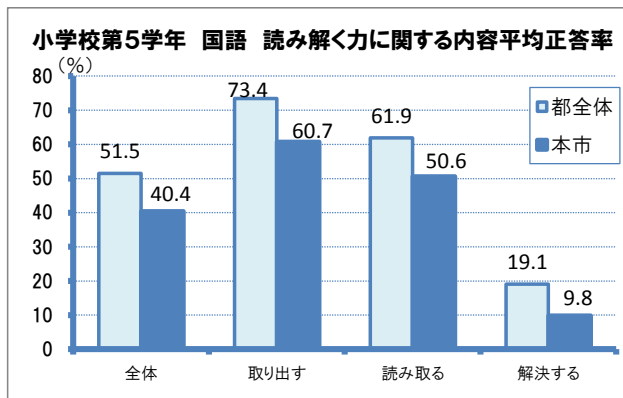
	24年度				
		関・意・態	思・表	技能	知・理
都全体	62.5	93.6	60.7	49.2	62.6
本市	57.4	93.2	54.9	42.5	57.4



平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査） 小学校第5学年【各教科・読み解く力の観点別】平均正答率

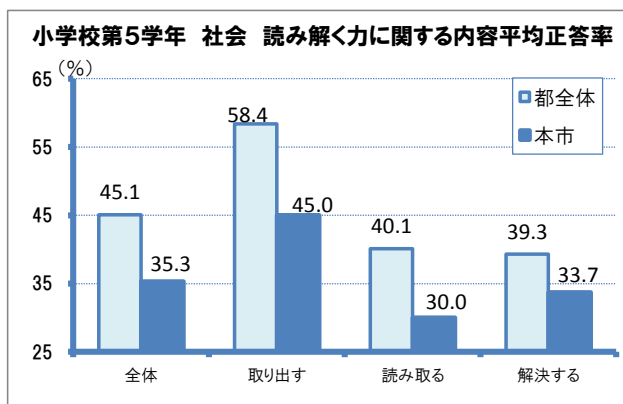
1 小学校第5学年 国語 読み解く力に関する内容正答率(%)

	24年度			
		取り出す	読み取る	解決する
都全体	51.5	73.4	61.9	19.1
本市	40.4	60.7	50.6	9.8



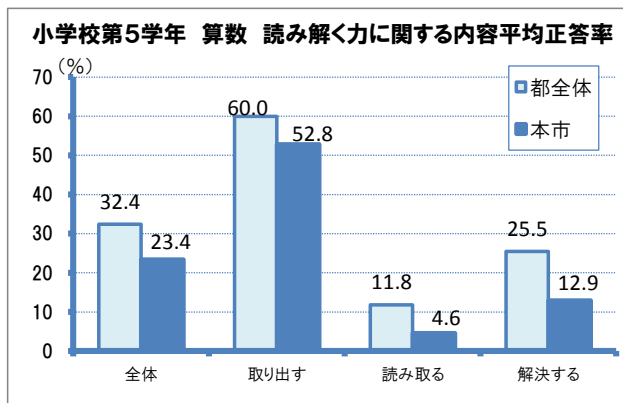
2 小学校第5学年 社会 読み解く力に関する内容正答率(%)

	24年度			
		取り出す	読み取る	解決する
都全体	45.1	58.4	40.1	39.3
本市	35.3	45.0	30.0	33.7



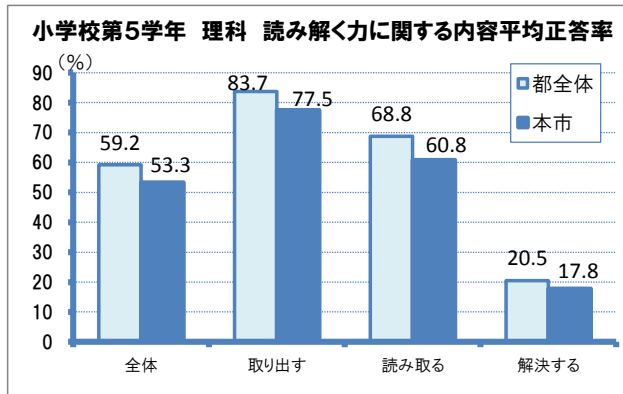
3 小学校第5学年 算数 読み解く力に関する内容正答率(%)

	24年度			
		取り出す	読み取る	解決する
都全体	32.4	60.0	11.8	25.5
本市	23.4	52.8	4.6	12.9

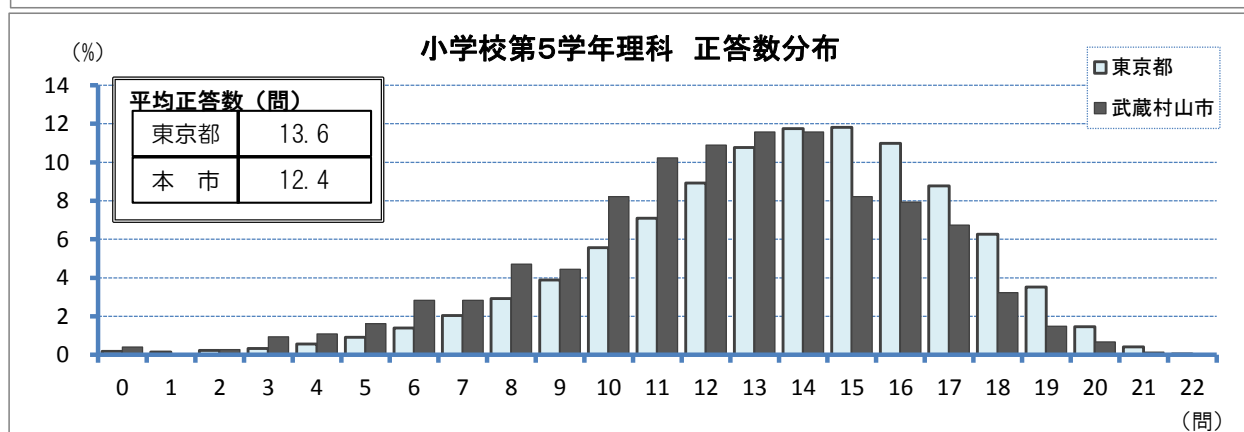
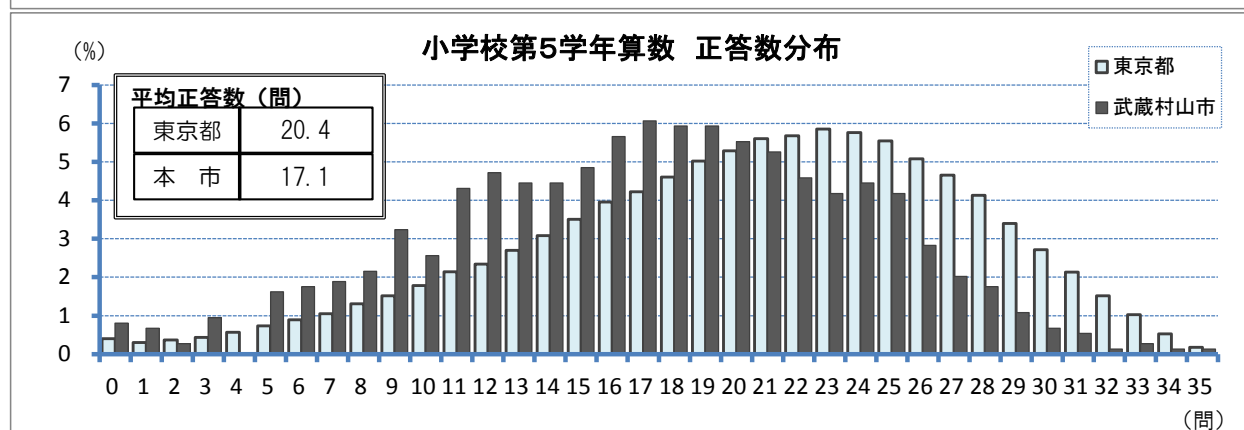
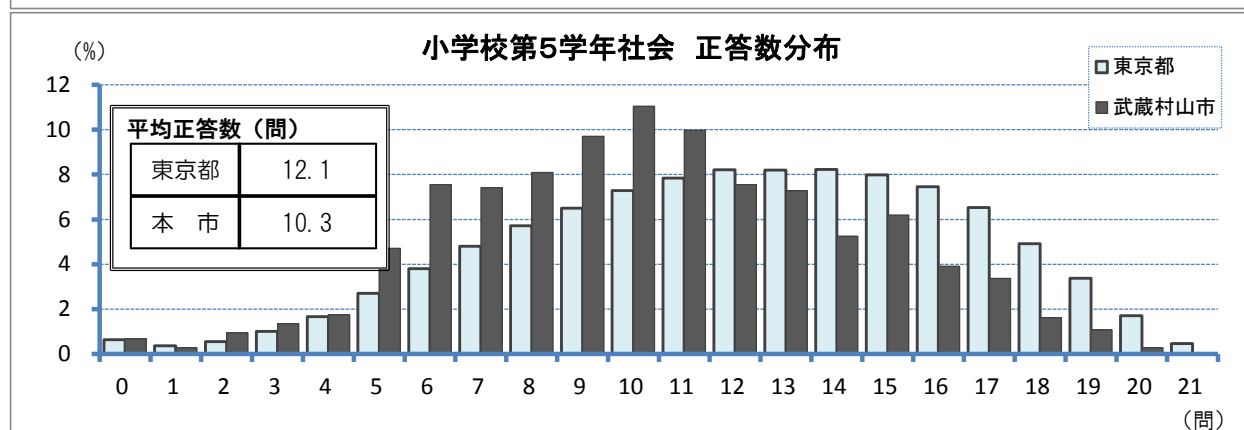
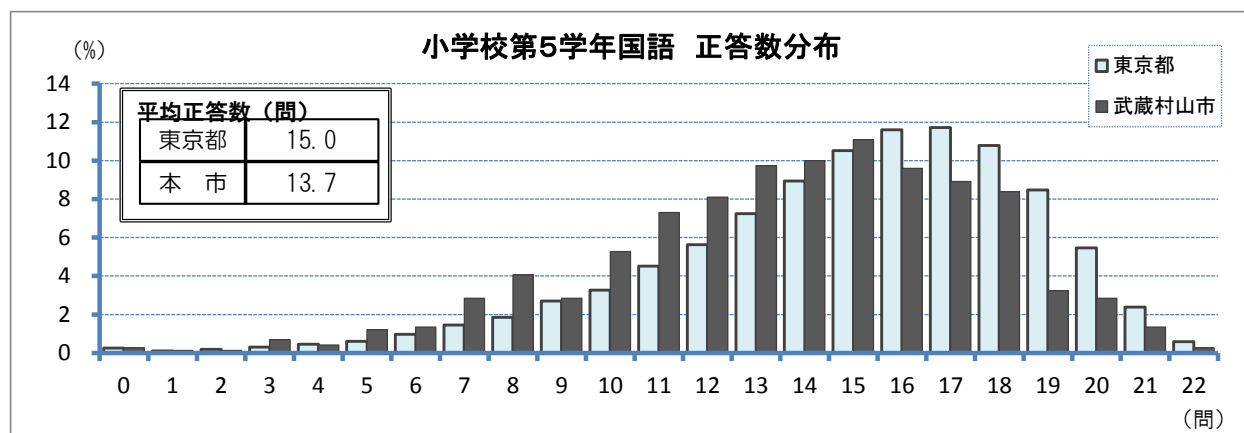


4 小学校第5学年 理科 読み解く力に関する内容正答率(%)

	24年度			
		取り出す	読み取る	解決する
都全体	59.2	83.7	68.8	20.5
本市	53.3	77.5	60.8	17.8



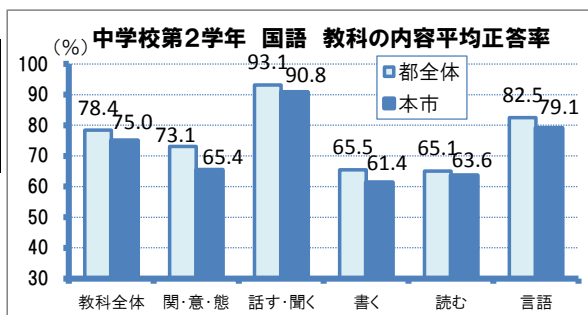
平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査）
 小学校第5学年 各教科正答数分布



平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査） 中学校第2学年【各教科・観点別】平均正答率

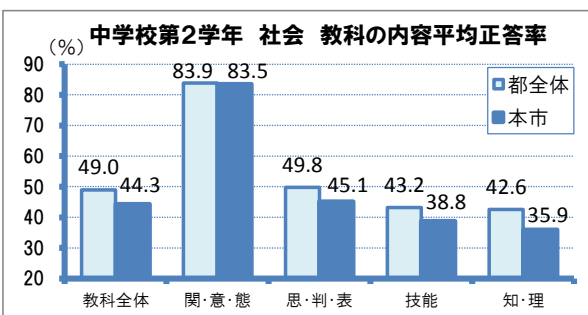
1 中学校2年 国語 平均正答率 (%)

	24年度					
		関・意・態	話す・聞く	書く	読む	言語
都全体	78.4	73.1	93.1	65.5	65.1	82.5
本市	75.0	65.4	90.8	61.4	63.6	79.1



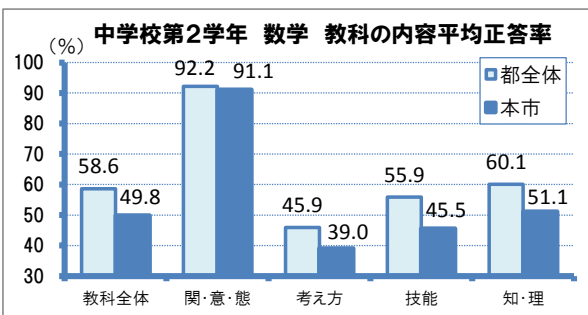
2 中学校2年 社会 平均正答率 (%)

	24年度				
	関・意・態	思・判・表	技能	知・理	
都全体	49.0	83.9	49.8	43.2	42.6
本市	44.3	83.5	45.1	38.8	35.9



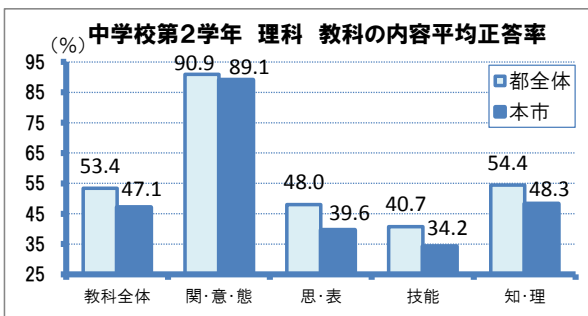
3 中学校2年 数学 平均正答率 (%)

	24年度				
	関・意・態	考え方	技能	知・理	
都全体	58.6	92.2	45.9	55.9	60.1
本市	49.8	91.1	39.0	45.5	51.1



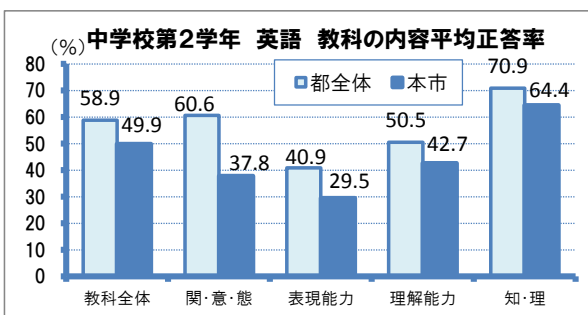
4 中学校2年 理科 平均正答率 (%)

	24年度				
	関・意・態	思・表	技能	知・理	
都全体	53.4	90.9	48.0	40.7	54.4
本市	47.1	89.1	39.6	34.2	48.3



5 中学校2年 英語 平均正答率 (%)

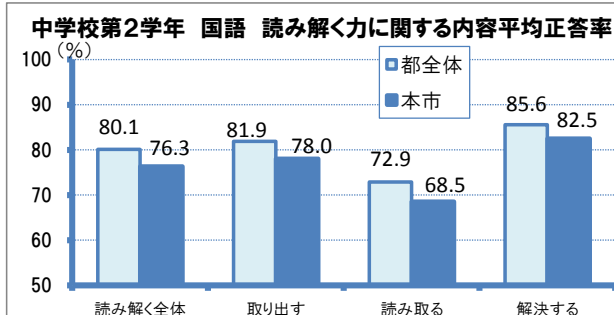
	24年度				
	関・意・態	表現能力	理解能力	知・理	
都全体	58.9	60.6	40.9	50.5	70.9
本市	49.9	37.8	29.5	42.7	64.4



平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査） 中学校第2学年【各教科・読み解く力の観点別】平均正答率

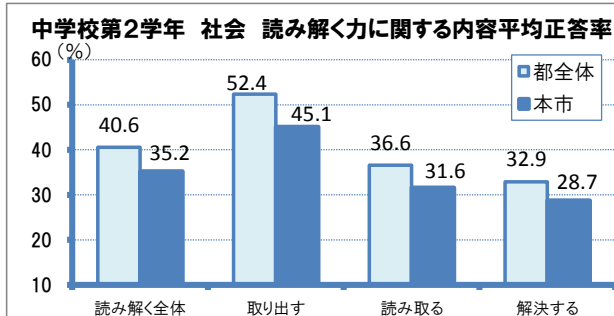
1 中学校第2学年 国語 読み解く力に関する内容正答率(%)

	24年度			
		取り出す	読み取る	解決する
都全体	80.1	81.9	72.9	85.6
本市	76.3	78.0	68.5	82.5



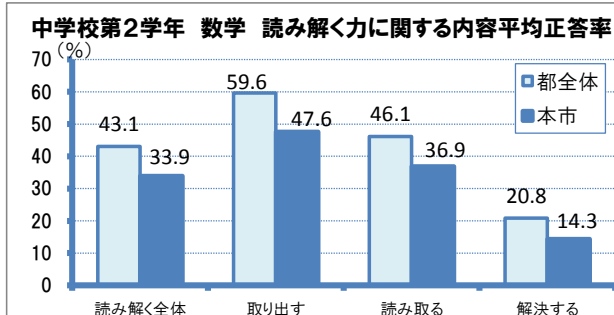
2 中学校第2学年 社会 読み解く力に関する内容正答率(%)

	24年度			
		取り出す	読み取る	解決する
都全体	40.6	52.4	36.6	32.9
本市	35.2	45.1	31.6	28.7



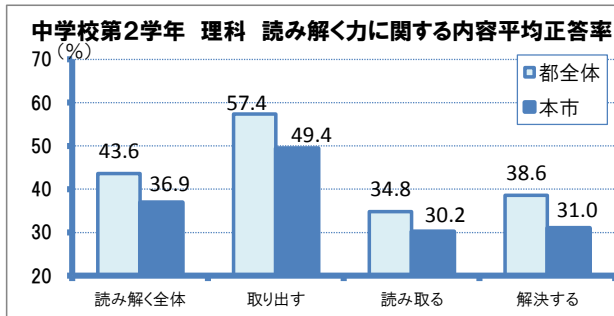
3 中学校第2学年 数学 読み解く力に関する内容正答率(%)

	24年度			
		取り出す	読み取る	解決する
都全体	43.1	59.6	46.1	20.8
本市	33.9	47.6	36.9	14.3



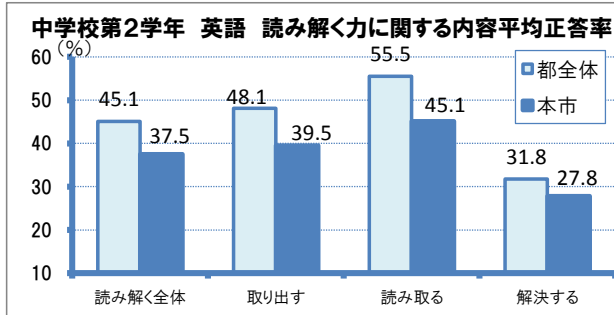
4 中学校第2学年 理科 読み解く力に関する内容正答率(%)

	24年度			
		取り出す	読み取る	解決する
都全体	43.6	57.4	34.8	38.6
本市	36.9	49.4	30.2	31.0

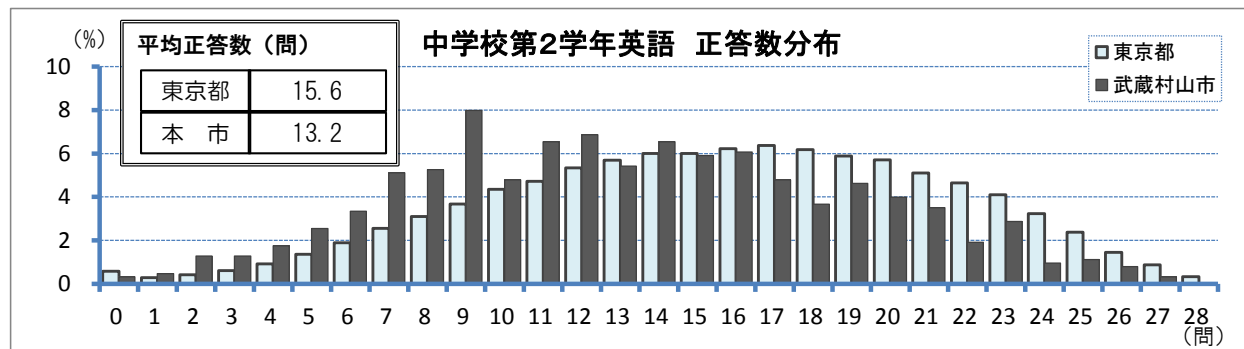
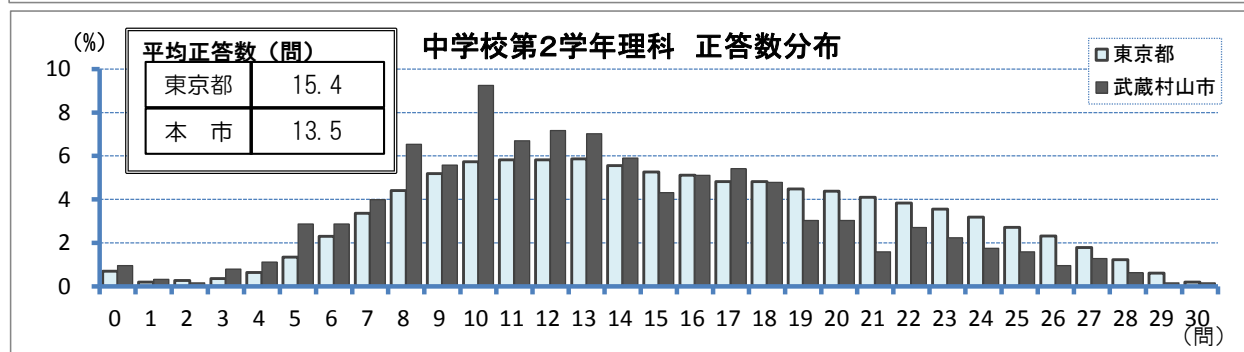
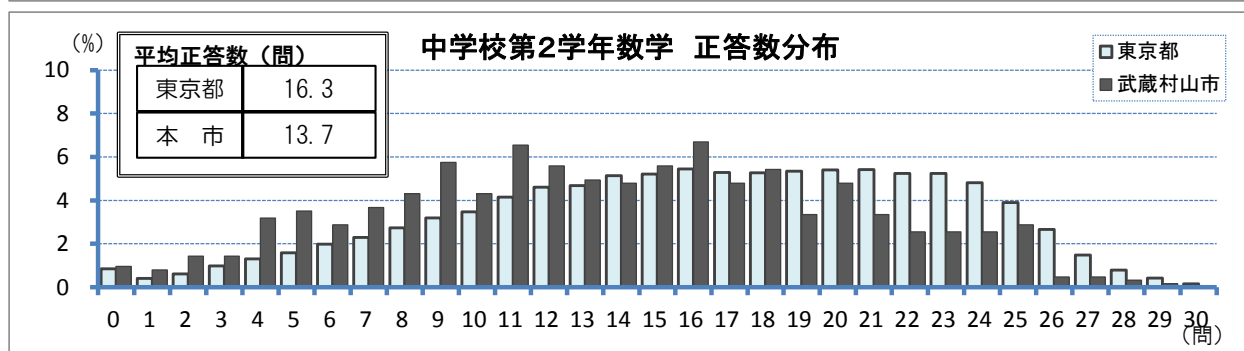
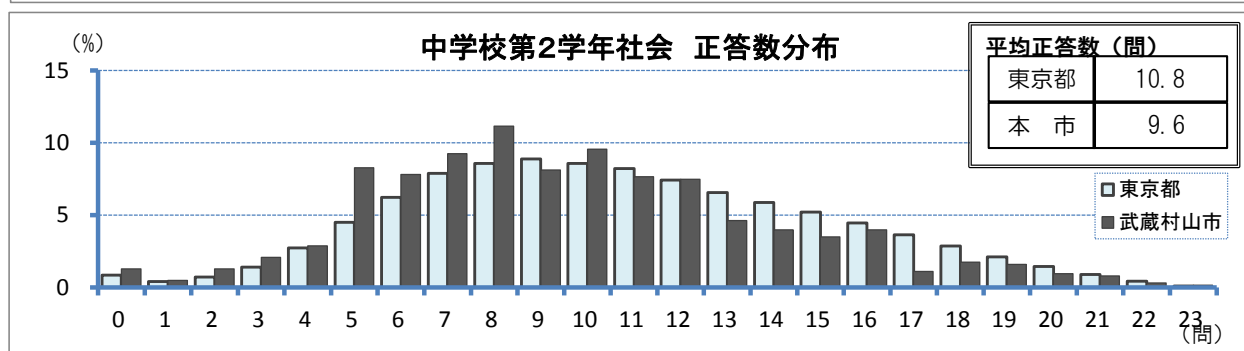
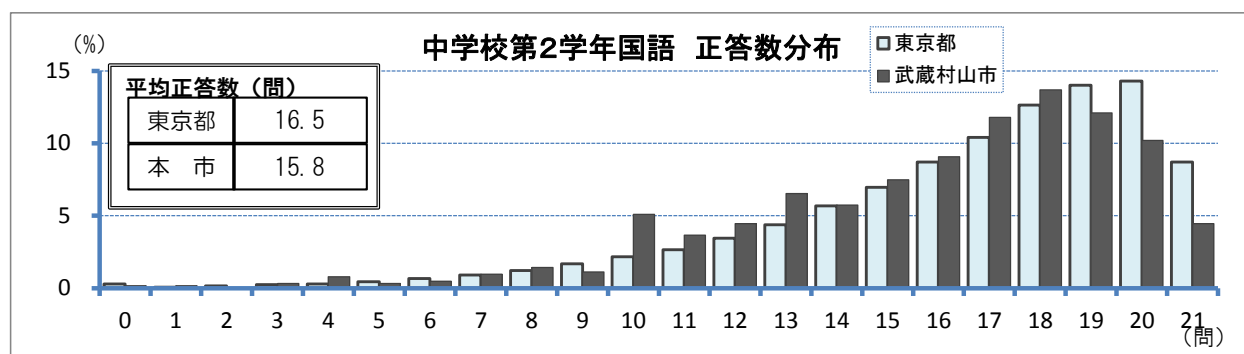


5 中学校第2学年 英語 読み解く力に関する内容正答率(%)

	24年度			
		取り出す	読み取る	解決する
都全体	45.1	48.1	55.5	31.8
本市	37.5	39.5	45.1	27.8



平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査）
中学校第2学年 各教科正答数分布



平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都調査)
小学校5年国語 各問題の正答率

問題 番号	学習指導要領 の内容	出題のねらい	評価の観点					市正答率 (%)	都を100とした場 合の比率(%)
			関・意・態	話・聞	書く	読む	言語		
1 (1)	3・4年 A 話聞 エ	【聞きたいこと】の中から、質問し忘れたことを聞き取ることができる。		○				64.8	94.1
1 (2)	3・4年 A 話聞 エ	【聞きたいこと】に沿って、大事なことを聞き取ることができる。		○				38.4	87.2
1 (3)	3・4年 A 話聞 エ	図書室で一年生のためにいろいろなことをしている理由を聞き取ることができる。		○				85.6	93.1
1 (4)	3・4年 A 話聞	めあてをもって、進んでインタビューをしようとしている。	○					85.6	100.9
2 (1)	3・4年 B 書 イ	伝える相手や内容に応じて、新聞記事の構成を工夫することができる。			○			58.0	85.1
2 (2)	3・4年 B 書 オ	二つの文を一つの文に表すことができる。			○			76.1	99.2
2 (3)	3・4年 B 書	適切な表現にするために推敲しようとしている。	○					73.3	97.2
3 (1)	3・4年 言語(1)ウ(イ)	第4学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことができる。					○	93.7	99.1
3 (2)	3・4年 言語(1)ウ(イ)	第4学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことができる。					○	95.2	99.0
3 (3)	3・4年 言語(1)ウ(イ)	第4学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことができる。					○	58.6	83.5
4 (1)	3・4年 言語(1)ウ(ウ)	漢字の「偏」がもつ意味を捉えることができる。					○	94.2	99.1
4 (2)	3・4年 言語(1)ウ(ウ)	2つの漢字に共通する読み方が分かる。					○	47.3	93.0
4 (3)	3・4年 言語(1)ウ(イ)	部首が表す意味や、漢字の一部分が表す読み方を踏まえ、漢字を正しく書くことができる。					○	24.7	97.9
5 (1)	1・2年 言語(1)イ(カ)	文脈の中で、述語との関係から主語を捉えることができる。					○	84.5	94.2
5 (2)	1・2年 言語(1)イ(カ)(キ)	主述や修飾・被修飾の関係などを正しく捉えることができる。					○	70.1	84.2
6 (1)	3・4年 C読 ウ	場面の様子を正確に読み取ることができる。				○		21.0	77.0
6 (2)	3・4年 C読 ウ	表現の工夫を捉えることができる。				○		29.8	77.5
6 (3)	3・4年 C読 ウ	登場人物の気持ちの変化を読み取ることができる。				○		56.2	79.9
6 (4)	3・4年 C読	文学的な文章を登場人物に着目して読み取ろうとしている。	○					86.2	94.6
7 (1)	3・4年 C読 イ	筆者の投げかけた問いかけを正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力					60.7	82.7
7 (2)	3・4年 C読 イ	段落相互の関係を読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力					50.6	81.8
7 (3)	3・4年 C読 エ	目的や意図に応じて要旨をまとめることができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力					9.8	51.5
			教科					65.4	92.6
			読み解く力					40.4	78.4
			国語全体					62.0	91.2

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都調査)
小学校5年社会 各問題の正答率

問題 番号	学習指導要領 の内容	出題のねらい	評価の観点			市正答率 (%)	都を100とした場 合の比率(%)
			関・意・態	思・判・表	技能 知・理		
1	3・4年(6)ア	東京都に隣接している県の名称・位置と、その地形・気候・交通及び特産物等の特色とを結び付けて捉えることができる。			○	26.5	69.7
2 (1)	3・4年(1)ア	身近な地域の様子を、地図記号・方位・スケールの観点から読み取ることができる。			○	45.7	81.3
2 (2)	3・4年(1)ア	身近な地域の特色を説明できる。		○		48.4	85.7
3 (1)	3・4年(4)ア	インタビューを基に、交番に勤務する警察官の交通安全に関わる仕事の内容を読み取ることができる。			○	56.9	85.2
3 (2)	3・4年(4)イ	110番通報の仕組みを図から読み取り、関係機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを理解している。			○	44.9	81.9
4 (1)	3・4年(2)アイ	見取り図から、スーパーマーケットの店内の様子を読み取ることができる。			○	79.7	92.7
4 (2)	3・4年(2)アイ	スーパーマーケットの野菜コーナーを調べて分かったことから、その理由を考え、表現できる。		○		11.8	67.7
4 (3)	3・4年(2)アイ	スーパーマーケットの見学を振り返り、学習したことを基に考え、進んで調べようとしている。	○			87.0	97.3
5 (1)	3・4年(5)ア	「火鉢の使い方」についての祖母へのインタビューから、人々の知恵を読み取ることができる。			○	62.6	88.7
5 (2)	3・4年(5)ア	道具の移り変わりと、人々のくらしの変化とを関連付けて捉えることができる。		○		56.0	80.0
6 (1)	3・4年(3)ア	水道水の使用料と人口の移り変わりのグラフから、調べてみたいことを見だし、表現できる。	○			90.7	98.6
6 (2)	3・4年(3)イ	調べたことを関係図に表し、水道水の確保をするための対策や事業は、計画的・協力的に行われていることを捉えることができる。		○		62.1	86.0
6 (3)	3・4年(3)アイ	学習を振り返り、地域社会の一員として節水や資源の再利用などの取組に協力しようとしている。	○			90.1	98.2
7	3・4年(6)イ	東京都の地形、産業や交通、主な都市の位置などを理解している。			○	20.1	63.5
8 (1)	3・4年(6)ウ	地図や表、グラフから、A地域の地形や気候、交通や産業の様子に関する情報を正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力			43.4	76.0
8 (2)	3・4年(6)ウ	地図や表、グラフから、情報を比較・関連付けてA地域の農産物や花の栽培の様子について読み取ることができる。	情報を比較・関連付けて読み取る力			31.0	83.9
8 (3)	3・4年(6)ウ	地図や表、グラフから、情報を比較・関連付けてA地域の交通や観光の様子について読み取ることができる。	情報を比較・関連付けて読み取る力			43.8	77.6
8 (4)	3・4年(6)ウ	地図や表、グラフから、読み取った内容を基に、A地域の生活の特色を読み解くことができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力			44.1	83.0
9 (1)	3・4年(6)イ	資料1から各地下鉄路線の開業した年と最も深いところの深さを正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力			46.6	78.0
9 (2)	3・4年(6)イ	資料1と資料2を比較・関連付けて、該当の地下鉄路線名を読み取ることができる。	情報を比較・関連付けて読み取る力			15.1	56.3
9 (3)	3・4年(6)イ	資料1と資料2から読み取った内容を基に、地下鉄の交通の広がりを読み解くことができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力			23.3	91.0
			教科			55.9	87.6
			読み解く力			35.3	78.3
			社会全体			49.0	85.1

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都調査)
 小学校5年算数 各問題の正答率

問題 番号	学習指導要領 の内容	出題のねらい	評価の観点				市正答率 (%)	都を100とした場 合の比率(%)
			関・意・態	考え方	技能	知・理		
1 (1)	3年A(3)ア	4位数(空位あり)×2位数(空位あり)の計算ができる。			○		72.9	95.7
1 (2)	4年A(3)ア	3位数÷2位数で、余りのある計算ができる。			○		71.2	96.0
1 (3)	4年D(2)ア	四則の混合した計算ができる。			○		49.7	77.2
1 (4)	4年A(5)イ	小数－小数の計算ができる。			○		34.5	70.2
1 (5)	4年A(5)ウ	小数÷整数の計算ができる。			○		55.9	80.5
1 (6)	4年A(6)イ	帯分数－帯分数(同分母分数)の計算ができる。			○		36.7	63.6
2 (1)	4年A(1)ア	位取りについて理解している。				○	19.7	64.2
2 (2)	4年A(1)ウ	数の相対的な大きさを理解している。				○	85.2	98.1
2 (3)	4年A(1)ア	整数(空位あり)の表し方を理解している。				○	46.9	74.3
2 (4)	4年A(5)ア	小数の仕組みと表し方を理解している。				○	74.3	88.0
2 (5)	4年A(5)ア	数の相対的な大きさを理解している。				○	87.8	96.6
3 (1)A	4年A(2)ウ	目的に応じて計算の見積りができる。		○			47.4	81.7
3 (1)B		(A) 切り上げ (B) 四捨五入 (C) 切り捨て		○			47.4	86.2
3 (1)C				○			54.7	87.5
3 (2)		日常生活の場面などにおいて、目的に応じて概数で表そうとしている。	○				80.3	94.8
4 (1)ひ	4年B(1)	複合図形の面積の求め方の説明から、図と式を選ぶことができる。		○			72.5	90.3
4 (1)あ	算数的活動			○			70.5	90.0
4 (2)	(1)イ	複合図形の面積を求めることができる。			○		43.6	77.4
5 (1)ア	4年B(2)イ	三角定規を組み合わせてできる角の大きさを求めることができる。			○		71.5	87.6
5 (1)イ		(ア) 角の合成 (イ) 角の分解 (ウ) 補角			○		63.6	83.2
5 (1)ウ					○		34.3	62.9
5 (2)		三角定規を組み合わせてできる角の大きさについて調べようとしている。	○				74.2	97.8
6	4年A(3)エ	余りのある除法の筆算の仕方について、正しく理解している。				○	33.3	72.5
7 (1)	4年C(2)イ	直方体の辺や面の位置、平行・垂直の関係について理解している。				○	76.5	92.6
7 (2)		(1) 面に平行な面(見取り図) (2) 面に垂直な辺 (3) 辺に平行な辺(見取り図) (4) 重なる点(展開図) (5) 面に垂直な面(展開図)				○	19.9	71.8
7 (3)						○	44.9	82.8
7 (4)						○	53.7	81.2
7 (5)						○	44.1	81.8
8	4年D(1)	切る数と切り分けられる数との関係を捉え、問題を解決することができる。		○			2.5	50.5
9 (1)	4年D(2)	3人の持っているあめ玉の個数の大小関係を、正しく取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				63.9	91.9
9 (2)	4年D(2)	1人を基準(口)として、その他の2人を口を使った式で表すことができる。	比較・関連付けて読み取る力				3.6	37.5
9 (3)	4年D(2)	3人の持っているあめ玉の個数をそれぞれ求めることができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				20.7	59.0
10 (1)	4年D(1)	段の数と正方形の個数との関係を捉え、表に表すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				41.8	82.6
10 (2)	4年D(1)	段の数と正方形の個数との関係を捉え、言葉の式で表すことができる。	比較・関連付けて読み取る力				5.5	39.5
10 (3)	4年D(1)	正方形の個数が441個のときの段の数を求めることができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				5.1	32.3
			教科				54.1	84.9
			読み解く力				23.4	72.2
			算数全体				48.9	83.9

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査）
小学校5年理科 各問題の正答率

問題 番号	学習指導要 領の内容	出題のねらい	評価の観点				市正答率 (%)	都を100とした場 合の比率(%)
			関・意・態	思・表	技能	知・理		
1 (1)	4年A(1)イ	閉じ込めた水は圧し縮められないことを理解している。				○	35.8	95.6
1 (2)	4年A(1)アイ	閉じ込めた空気や水の体積とそれぞれの性質の違いを 関連付けて捉えることができる。		○			12.1	98.1
2 (1)	3年A(2)イ	ゴムを働かせたときの現象について、調べた結果を 読み取ることができる。			○		45.2	80.1
2 (2)	3年A(2)イ	＜ゴムフックカーが進んだきよりの結果＞から、ゴムを伸 ばす長さゴムフックカーが進む距離とを関連付けて捉 えることができる。		○			64.8	87.5
2 (3)	3年A(2)イ	ゴムの力を働かせたときの現象に関心をもち、進んでゴ ムの働きを調べようとしている。	○				92.9	100.1
3 (1)	4年B(1)ア	人の体の筋肉とその動きを調べることができる。			○		46.8	89.0
3 (2)	4年B(1)ア	骨の位置や筋肉の働きについて理解している。				○	72.9	89.3
4 (1)	3年B(1)ア	虫眼鏡を適切に使って観察をすることができる。			○		18.3	92.9
4 (2)	3年B(1)ア	昆虫の育ち方には一定の順序があることを理解してい る。				○	87.6	95.4
4 (3)	3年B(1)ア	身近な昆虫に愛情をもって、探したり育てたりしようと している。	○				93.5	99.1
5 (1)	3年A(3)ア	光を反射させ集めたときの明るさや暖かさを調べる実験 の条件を整えることができる。			○		59.8	87.4
5 (2)	3年A(3)ア	鏡の枚数と温度・照度とを関連付けて捉えることができ る。		○			78.5	91.1
5 (3)	3年A(3)ア	光を重ね合わせたときの物の明るさや暖かさを比較・関 連付けて捉えることができる。		○			81.6	94.5
6 (1)	4年A(3)ア	乾電池の数やつなぎ方を変えて、回路を流れる電流の 強さとその働きとを関係付けて捉えることができる。		○			37.5	83.6
6 (2)	4年A(3)ア	『直列つなぎ』と『並列つなぎ』について正しく理解してい る。				○	33.5	84.5
7 (1)	4年B(4)ア	〔資料〕から、「9月5日に、月がちょうど南の方角に見え る時刻」を正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				66.5	87.5
7 (2)	4年B(4)ア	〔資料〕から、日がたつごとに、月の形が変わって見える ことと、月が見え始める時刻が変わることを比較・関連 付けて読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力				59.3	88.3
7 (3)	4年B(4)ア	9月19日午後10時の月の見える形と位置について推論 することができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論 して解決する力				24.6	87.5
8 (1)	4年B(3)イ	コップに水滴がついたのは、コップの内側か外側か、情 報を正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				88.4	96.8
8 (2)	4年B(3)イ	〔図2〕と〔図1〕とを比較・関連付けて、水てきがつくの が窓の内側か外側か、読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力				74.5	91.4
8 (3)	4年B(3)イ	〔図2〕と〔図1〕とを比較・関連付けて、結露について説明 することができる。	比較・関連付けて読み取る力				48.7	84.3
8 (4)	4年B(3)イ	日常生活の場面から結露を見いだすことができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論 して解決する力				11.0	85.8
			教科				57.4	91.8
			読み解く力				53.3	90.0
			理科全体				56.1	91.2

各教科の分析

国語

【平均正答率から】

- ◆ 平均正答率は 62.0% であり、都全体を 6.0 ポイント下回った。
- ◆ 全 22 問中、都全体と同率又は正答率が上回る問題は 1 問であった。

【教科の内容の平均正答率から】

- ◆ 教科の内容の平均正答率は 65.4% であり、都全体を 5.2 ポイント下回った。
- ◆ 「関心・意欲・態度」の平均正答率は 81.7% であり、都全体を 2.1 ポイント下回った。
- ◆ 「話す・聞く」能力の平均正答率は 62.9% であり、都全体を 5.4 ポイント下回った。
- ◆ 「書く」能力の平均正答率は 67.1% であり、都全体を 5.3 ポイント下回った。
- ◆ 「読む」能力の平均正答率は 35.7% であり、都全体を 9.6 ポイント下回った。
- ◆ 「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率は 71.0% であり、都全体を 4.6 ポイント下回った。

【読み解く力に関する内容の平均正答率から】

- ◆ 読み解く力に関する内容の平均正答率は 40.4% であり、都全体を 11.1 ポイント下回った。
- ◆ 「取り出す力」の平均正答率は 60.7% で、都全体を 12.7 ポイント下回った。
- ◆ 「読み取る力」の平均正答率は 50.6% で、都全体を 11.3 ポイント下回った。
- ◆ 「解決する力」の平均正答率は 9.8% で、都全体を 9.3 ポイント下回った。

【正答数分布から】

- ◆ 全 22 問の平均正答数は 13.7 問であり、都全体を 1.3 ポイント下回った。
- ◆ 正答数 0 問の児童の割合は 0.3% であり、都全体と同じであった。

【各問題の正答率から】

- ◆ **6** (1) 「場面の様子を正確に読み取る」問題の正答率は、21.0% であった。
- ◆ **6** (2) 「表現の工夫を捉える」問題の正答率は、29.8% であった。
- ◆ **6** (3) 「登場人物の気持ちの変化を読み取る」問題の正答率は、56.2% であった。
- ★ 上の 3 問については、いずれも都の平均正答率を 100 とした場合に 80 を下回る正答率であった。(1) では、登場人物が実際にプールで泳いでいる時に、海で泳いだ体験を重ね合わせて表現されている部分を正確に読み取ることができなかったことから、誤答が多くなっているものと考えられる。単語からイメージをふくらませ、叙述に即して正確に場面設定を捉えることに課題があると考えられる。文学的文章を用いて学習を進める際に、「いつ」「どこで」「だれが」「どうしたのか」を正確に捉えさせるために、どこに何が書かれているのか、その根拠を明確に確認していくことが大切である。
- ◆ **7** (1) 「筆者の投げかけた問いかけを正確に取り出す」問題の正答率は、60.7% であった。
- ◆ **7** (2) 「段落相互の関係を読み取る」問題の正答率は、50.6% であった。
- ◆ **7** (3) 「目的や意図に応じて要旨をまとめる」問題の正答率は、9.8% であった。
- ★ 説明的文章の中で、段落が指定されている中から筆者の問いかけの文を取り出すことができた児童がおよそ 6 割である。問いかけの文は説明文の前半に書かれていることが多く、文末表現がの特徴など、基礎的・基本的な内容をしっかりと押さえる必要がある。
また、筆者の投げかけた問いかけの文などから、文章全体の構成を捉え、筆者がどのようなことを伝えようとしているのか、形式段落ごとに少ない字数でまとめる等、必要な情報をまとめさせる指導の充実を図る必要がある。

各教科の分析

社会

【平均正答率から】

- ◆ 平均正答率は 49.0%であり、都全体を 8.6 ポイント下回った。
- ◆ 全 21 問中、都全体と同率又は正答率が上回る問題は見られなかった。

【教科の内容の平均正答率から】

- ◆ 教科の内容の平均正答率は 55.9%であり、都全体を 7.9 ポイント下回った。
- ◆ 「関心・意欲・態度」の平均正答率は 89.3%であり、都全体を 1.7 ポイント下回った。
- ◆ 「社会的な思考・判断・表現」の平均正答率は 44.6%であり、都全体を 9.5 ポイント下回った。
- ◆ 「観察・資料活用の技能」の平均正答率は 61.2%であり、都全体を 8.7 ポイント下回った。
- ◆ 「社会的事象についての知識・理解」の平均正答率は 30.5%であり、都全体を 11.0 ポイント下回った。

【読み解く力に関する内容の平均正答率から】

- ◆ 読み解く力に関する内容の平均正答率は 35.3%であり、都全体を 9.8 ポイント下回った。
- ◆ 「取り出す力」の平均正答率は 45.0%で、都全体を 13.4 ポイント下回った。
- ◆ 「読み取る力」の平均正答率は 30.0%で、都全体を 10.1 ポイント下回った。
- ◆ 「解決する力」の平均正答率は 33.7%で、都全体を 5.6 ポイント下回った。

【正答数分布から】

- ◆ 全 21 問の平均正答数は 10.3 問であり、都全体を 1.8 ポイント下回った。
- ◆ 正答数 0 問の児童の割合は 0.7%であり、都全体を 0.1 ポイント上回った。

【各問題の正答率から】

- ◆ 1 「東京都に隣接している県の名称・位置と、その地形・気候・交通及び特産物等の特色とを結び付けて捉える」問題の正答率は 26.5%であった。
- ◆ 7 「東京都の地形、産業や交通、主な都市の位置」についての問題の正答率は 20.1%であった。
- ★ 昨年度の同調査においても、都道府県の位置と名称についての理解、その定着が十分ではないことが明らかとなった。「47 都道府県の名称と位置」を地図上で確かめ、日本地図（白地図）上で指摘できるようにするだけでなく、自分の生活との関連を捉えさせるよう、地形・気候・交通及び特産物等の特色とを結び付けて覚えられるようにする。そのためには、地域を限定しながらでも、日常的に位置と特色を関連付けて確認をしていくような活動の工夫が必要である。
- ◆ 4 (2)「スーパーマーケットの野菜コーナーを調べて分かったことから、その理由を考え、表現する」問題の正答率は、11.8%であった。
- ★ この問題は、野菜コーナーにおいて生産者を明らかにし、「農薬を使っていないこと」「キャベツを使った料理の紹介」をしている理由について考える問題である。児童は、図や写真から事実を読み取ることができることは、同問題（1）の正答率からもうかがえるが、その事実の背景にある理由を明確に捉えることに課題がある。「なぜ」「どうして」と分かったことから新たな課題を見付け、追究する学習活動を夏季休業日前に意図的・計画的に設定し、夏休みの自由研究で取り組ませる等の工夫が必要である。

各教科の分析

算数

【平均正答率から】

- ◆ 平均正答率は 48.9% であり、都全体を 9.4 ポイント下回った。
- ◆ 全 35 問中、都全体と同率又は正答率が上回る問題は見られなかった。

【教科の内容の平均正答率から】

- ◆ 教科の内容の平均正答率は 54.1% であり、都全体を 9.6 ポイント下回った。
- ◆ 「関心・意欲・態度」の平均正答率は 77.2% であり、都全体を 3.0 ポイント下回った。
- ◆ 「数学的な考え方」の平均正答率は 49.2% であり、都全体を 7.3 ポイント下回った。
- ◆ 「数量や図形についての技能」の平均正答率は 53.4% であり、都全体を 12.6 ポイント下回った。
- ◆ 「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率は 13.3% であり、都全体を 9.1 ポイント下回った。

【読み解く力に関する内容の平均正答率から】

- ◆ 読み解く力に関する内容の平均正答率は 23.4% であり、都全体を 9.0 ポイント下回った。
- ◆ 「取り出す力」の平均正答率は 52.8% で、都全体を 7.2 ポイント下回った。
- ◆ 「読み取る力」の平均正答率は 4.6% で、都全体を 7.2 ポイント下回った。
- ◆ 「解決する力」の平均正答率は 12.9% で、都全体を 12.6 ポイント下回った。

【正答数分布から】

- ◆ 全 31 問の平均正答数は 17.1 問であり、都全体を 3.3 ポイント下回った。
- ◆ 正答数 0 問の児童の割合は 0.8% であり、都全体を 0.4 ポイント上回った。

【各問題の正答率から】

- ◆ 1 (3) 「四則の混合した計算」の正答率は 49.7% であった。

問題 $18 - 9 \div 3$

- ★ 計算のきまりに従って、四則の混合した計算が正しくできる児童が半数に満たない状況である。誤答として最も多いと考えられるのは、「 $18 - 9 = 9$ 」を先に行い、その後「 $9 \div 3 = 3$ 」と計算したものと思われる。たし算・ひき算よりもかけ算・わり算を先に行うことについては、第 4 学年において学習をしている。 $500 - 60 \times 3$ について、「60 円の鉛筆を 3 本買って、500 円を出しました。おつりはいくらでしょう。」という具体的な場面設定から、計算の順序について捉えさせるような授業の工夫をするとともに、定期的に既習事項を振り返る復習プリントを実施する等、基礎・基本の徹底を図る工夫が必要である。

- ◆ 1 (4) 「小数－小数の計算」の正答率は 34.5% であった。

問題 $51.3 - 4.28$

- ★ この問題は小数の減法（ $1/10$ の位の小数－ $1/100$ の位の小数の計算）であるが、都正答率を 100 とした場合の市正答率は 70.2 であり、正答率が低かった。昨年度、「小数＋小数の加法」の問題（ $2.35 + 4.8$ ）の正答率も低く、同様の課題が残っていることが明らかとなった。誤答の共通している要因として、位をそろえずに右端をそろえて計算したことが原因と考えられる。具体的な授業改善のポイントとして、誤答を取り上げ、なぜその答えになってしまったのか、なぜその答えでは誤りなのかを考えさせる活動などを取り入れることなどが必要である。

各教科の分析

理科

【平均正答率から】

- ◆ 平均正答率は 56.1%であり、都全体を 4.6 ポイント下回った。
- ◆ 全 22 問中、都全体と同率又は正答率が上回る問題は 1 問であった。

【教科の内容の平均正答率から】

- ◆ 教科の内容の平均正答率は 57.4%であり、都全体を 5.1 ポイント下回った。
- ◆ 「関心・意欲・態度」の平均正答率は 93.2%であり、都全体を 0.4 ポイント下回った。
- ◆ 「科学的な思考・表現」の平均正答率は 54.9%であり、都全体を 5.8 ポイント下回った。
- ◆ 「観察・実験の技能」の平均正答率は 42.5%であり、都全体を 6.7 ポイント下回った。
- ◆ 「自然事象についての知識・理解」の平均正答率は 57.4%であり、都全体を 5.2 ポイント下回った。

【読み解く力に関する内容の平均正答率から】

- ◆ 読み解く力に関する内容の平均正答率は 53.3%であり、都全体を 5.9 ポイント下回った。
- ◆ 「取り出す力」の平均正答率は 77.5%で、都全体を 6.2 ポイント下回った。
- ◆ 「読み取る力」の平均正答率は 60.8%で、都全体を 8.0 ポイント下回った。
- ◆ 「解決する力」の平均正答率は 17.8%で、都全体を 2.7 ポイント下回った。

【正答数分布から】

- ◆ 全 19 問の平均正答数は 12.4 問であり、都全体を 1.2 ポイント下回った。
- ◆ 正答数 0 問の児童の割合は 0.4%であり、都全体を 0.2 ポイント上回った。

【各問題の正答率から】

- ◆ 4 (1)「虫眼鏡を適切に使って観察をする」問題の正答率は 18.3%であった。

★ この問題は、虫眼鏡を適切に使って観察をすることができるかを見る問題である。「動かせるもの」を観察するときには、虫眼鏡を目に近付けておき、観察対象を動かし、「動かせないもの」を観察するときには、観察対象を体に近付け

りょうたくんはキャベツの葉を観察し、卵を見つけました。教室に持ち帰り、その卵を虫めがねを使って観察しようと思います。虫めがねの使い方として正しいものを、次のアからエまでの中から 1 つ選び、記号で答えましょう。

- ア 虫めがねを顔からはなしてもち、顔を前後に動かして、はっきり見えるようにする。
 イ 虫めがねを顔に近づけてもち、虫めがねを前後に動かして、はっきり見えるようにする。
 ウ 虫めがねを顔からはなしてもち、キャベツの葉を前後に動かして、はっきり見えるようにする。
 エ 虫めがねを顔に近づけてもち、キャベツの葉を前後に動かして、はっきり見えるようにする。



ア



イ



ウ



エ

ておき、虫眼鏡を動かすという基本的事項についての指導の徹底を図る必要がある。

- ◆ 6 (1)「乾電池の数やつなぎ方を変えて、回路を流れる電流の強さとその働きとを関連付けて捉える」問題の正答率は 37.5%であった。
- ◆ 6 (2)『直列つなぎ』と『並列つなぎ』について」の問題の正答率は 33.5%であった。

★ 乾電池の数やつなぎ方を変えることによって、回路を流れる電流の強さとその働きとを関連付けて捉えることに課題が見られる。「乾電池を逆向きにつなぐことでどうなるのか」、「乾電池の数を増やすとどうなるのか」、また、「増やした乾電池を『並列つなぎ』にした場合と『直列つなぎ』にした場合と、どのような違いがあるのか」などについて、実験結果を一覧にまとめる学習活動を取り入れることなどが必要である。

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都調査)
中学校2年国語 各問題の正答率

問題 番号	学習指導要 領の内容	出題のねらい	評価の観点					市正答率 (%)	都を100とした場 合の比率(%)
			関・意・態	話・聞	書く	読む	言語		
1 (1)	1年 A話・聞 エ	目的に沿って話の要点を聞き取り、校外学習の 変更点について捉えることができる。		○				81.5	94.9
1 (2)	1年 A話・聞 エ	目的に沿って話の要点を聞き取り、変更の具体 的な内容を捉えることができる。		○				93.3	97.9
1 (3)	1年 A話・聞 エ	目的に沿って話の要点を聞き取り、変更になった 理由を捉えることができる。		○				97.5	99.4
1 (4)	1年 A話・聞 エ	目的や場面に応じて、条件に基づき質問しようと している。	○					35.3	70.4
2 A	1年 伝統(1)ウ	同音で字形の似ている漢字を正しく書くことが できる。					○	73.4	93.1
2 B	1年 伝統(1)ウ	同音で字形の似ている漢字を正しく書くことが できる。					○	76.3	93.3
2 C	1年 伝統(1)ウ	同音で字形の似ている漢字を正しく書くことが できる。					○	81.1	94.1
3 (1)	1年 伝統(1)ウ	同じ漢字の異なる読みを正しく読むことができる。					○	97.8	99.6
3 (2)	1年 伝統(1)ウ	同じ漢字の異なる読みを正しく読むことができる。					○	94.9	104.5
4 A	1年 伝統(1)イ	接続語を正しく理解し使うことができる。					○	73.2	91.2
4 B	1年 伝統(1)イ	接続語を正しく理解し使うことができる。					○	65.6	91.8
4 C	1年 伝統(1)イ	接続語を正しく理解し使うことができる。					○	70.5	97.6
5 (1)	1年 C読 ウ	登場人物の心情を捉えるために、叙述から情報 を正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力					78.0	95.3
5 (2)	1年 C読 ウ	登場人物の言動と主人公のつづやきを比較・関 連付け、両者の心情を読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力					68.5	93.9
5 (3)	1年 C読 ウ	場面の展開や心情・情景の描写から、主人公の 心の変化を読み解くことができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決 する力					82.5	96.4
6 (1)	1年 C読 イ	文章における段落相互の関係やそれぞれの段落 の役割を読み取ることができる。				○		51.1	100.6
6 (2)	1年 C読 イ	筆者の意見・考えについて、その根拠となる情報 を本文中から読み取ることができる。				○		62.7	91.6
6 (3)	1年 C読 イ	文章の構成や展開を捉え、筆者の意見・考えを 読み取ることができる。				○		76.9	101.2
7 (1)	1年 B書 エ	事実や事柄が相手に効果的に伝わるように、書 いた文章を読み直すことができる。			○			58.9	100.2
7 (2)	1年 B書 エ	伝えたい事実や事柄について、材料の用い方や 叙述の仕方を工夫して書くことができる。			○			63.8	88.4
7 (3)	1年 B書 エ	作文の内容や記事の下書きを基に、コメントにつ いて工夫して表現しようとしている。	○					95.5	99.5
			教科					75.0	95.7
			読み解く力					76.3	95.3
			国語全体					75.2	95.6

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査）
中学校2年社会 各問題の正答率

問題 番号	学習指導要領 の内容	出題のねらい	評価の観点				市正答率 (%)	都を100とした場 合の比率(%)
			関・意・態	思・判・表	技能	知・理		
1 (1)	地理(1)ア	世界の大陸や大洋、地域区分を正しく理解している。				○	33.5	98.3
1 (2)	地理(1)ア	様々な地図の中から、問題文に即した地図を選び、活用 することができる。			○		34.2	96.8
1 (3)	地理(1)ア	様々な地図の特徴を基に、世界の地域構成などを説明す ることができる。		○			55.3	98.2
2 (1)	地理(2)ア	日本の地域区分、都道府県名や都道府県庁所在地を正しく 理解している。				○	19.1	70.3
2 (2)	地理(2)ア	日本の地域構成と気候などの自然条件を正しく理解してい る。				○	71.9	92.9
2 (3)	地理(2)ア	地図を活用し、2つの都市の時差を読み取ることができる。			○		16.6	106.6
3 (1)	地理(1)エ	世界の様々な地域の調査において、主題に即した資料を選 択できる。			○		69.9	96.2
3 (2)	地理(1)エ	主題に適した情報について読み取ることができる。			○		54.6	97.1
3 (3)	地理(1)エ	資料を基に、進んで地域的特色を追究しようとしている。	○				79.3	100.0
4 (1)	歴史(1)ア	年代の表し方を正しく捉えることができる。			○		44.7	86.1
4 (2)	歴史(2)イ	平安時代から鎌倉時代にかけての政権の変化について正しく 理解している。				○	14.0	58.2
4 (3)	歴史(1)ア	古代から中世にかけて活躍した人物と、その主な業績につ いて正しく理解している。				○	40.9	81.7
5 (1)	歴史(2)ア	5世紀ごろの日本の対外関係について読み取ることができる。			○		33.6	79.5
5 (2)	歴史(2)イ	年表や資料を基に、7世紀初めの日本と中国との関係につ いて捉えることができる。			○		18.0	63.3
5 (3)	歴史(2)ア	年表と2つの資料を結び付けて、7世紀から8世紀における 国の内外の様子を説明することができる。		○			31.0	81.8
6 (1)	歴史(3)ア	複数の資料を結び付け、中世の国内の状況の変化につ いて捉えることができる。		○			49.0	88.8
6 (3)	歴史(3)ア	歴史の学習を深めるため、進んで資料を活用しようとして いる。	○				87.8	99.2
7 (1)	地理(1)ウ(ア)	中国における農作物の栽培地域を取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				48.3	86.1
7 (2)	地理(1)ウ(ア)	農作物の栽培地域の分布を降水量や気温の主題図と関連 付けて読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力				24.0	85.4
7 (3)	地理(1)ウ(ア)	中国における農作物の栽培条件を基に、インドにおける農 作物の栽培地域を推論することができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論 して解決する力				27.4	90.0
8 (1)	歴史(4)イ	江戸の町の土地利用図から土地利用の様子を正確に取 り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				42.0	86.1
8 (2)	歴史(4)イ	『資料Ⅰ』と『資料Ⅱ』の時代の異なる江戸の町の土地 利用図を比較・関連付けて、江戸の町の土地利用の変化を 読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力				39.2	86.9
8 (3)	歴史(4)イ	複数の資料から読み取ったこと基に、江戸の町づくりにつ いて推論することができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論 して解決する力				30.1	85.0
			教科				44.3	90.4
			読み解く力				35.2	86.7
			社会全体				41.9	89.5

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都調査)
中学校2年数学 各問題の正答率

問題 番号	学習指導要 領の内容	出題のねらい	評価の観点				市正答率 (%)	都を100とした場 合の比率(%)
			関・意・態	考え方	技能	知・理		
1 (1)	小6年A(2)	分数と小数の加法の計算ができる。			○		44.2	81.8
1 (2)	1年A(1)イ	指数を含んだ数の減法の計算ができる。			○		76.4	90.9
1 (3)	1年A(2)ウ	分配法則のある文字式の加法と減法の計算ができる。			○		57.3	79.5
1 (4)	2年A(1)ア	文字式を用いた乗法の計算ができる。			○		50.2	76.3
2 (1)	1年A(1)ア	正負の数の加法の計算を、数直線を使って説明することができる。		○			63.5	88.5
2 (2)	1年A(1)ア	正負の数の減法を加法にする方法を正しく理解している。				○	71.4	90.7
2 (3)①	1年A(1)イ	()の付いた正負の数の計算ができる。			○		73.7	89.1
2 (3)②	1年A(1)イ	正負の数の計算ができる。			○		79.0	89.8
3 (1)	1年A(2)エ	文字に負の数を代入して、式の値を求めることができる。			○		61.3	83.2
3 (2)	2年A(1)イ	文字式で数量及び数量の関係を捉えようとしている。	○				94.4	100.6
3 (3)	1年A(2)エ	正三角形に並べた石の個数の求め方を表す式を文字式で考えることができる。		○			24.9	85.1
3 (4)	1年A(3)イ	方程式を解く際の「移項」の考え方を、等式の性質を使って説明することができる。		○			28.7	78.1
4 (1)	1年A(3)ウ	2種類の切手の枚数の合計は14枚であることから、一方を x 枚としたときの他方の枚数を、 x を用いて表すことができる。			○		19.3	60.7
4 (2)アイ	1年A(3)ウ	問題文にある数量関係を読み取り、一次方程式に表すことができる。			○		17.2	56.1
4 (2)枚数	1年A(3)ウ	一次方程式を解き、問題を解決することができる。			○		41.0	77.2
5 (1)	1年C(1)エ	長方形の面積 ycm^2 は、縦の長さ $6cm$ に、横の長さ xcm をかければ求められることを理解している。				○	51.3	80.1
5 (2)	1年C(1)イ	比例の定義や性質を正しく理解している。				○	52.9	84.4
6 (1)	1年B(1)イ	交わった半径の異なる円の対称軸は、2つの円の中心をとおり直線だけであることを正しく理解している。				○	28.7	82.9
6 (2)	1年B(1)ア	角の二等分線を正しく作図できる。			○		57.4	84.3
6 (3)	1年B(1)ア	図形の作図に意欲的に取り組もうとしている。	○				87.9	97.0
7 (1)	1年D(1)ア	相対度数を正しく求めることができる。			○		13.7	70.9
7 (2)	1年D(1)イ	度数の合計と中央値より小さい値の度数から、中央値と同じ値の度数を求めることができる。			○		1.1	29.5
8 (1)	1年A(1)エ	情報を基に、容器Xの容積を求める式を正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				26.0	62.1
8 (2)	1年B(2)ウ	容器Xと容器Yに入っている水の体積比を読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力				0.5	12.8
8 (3)	1年A(1)イ	条件から、 a と b の値を正しく求めることができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				2.7	43.4
9 (1)	1年C(1)ア	【誠二くんの考え】では、長方形の個数は引く線の本数に1をたせばよいという情報を正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				69.2	89.6
9 (2)	1年C(1)ア	【京子さんの考え】では、直線の本数と長方形の個数はどのような関係になっているかを読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力				57.0	90.0
9 (3)	1年C(1)ア	【明夫くんの考え】では、直線の本数と長方形の個数はどのような関係になっているかを読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力				46.4	77.5
9 (4)	1年C(1)ア	【明夫くんの考え】では、直線の本数と長方形の個数はどのような関係になっているかを読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力				43.7	76.2
9 (5)	1年C(1)ア	【明夫くんの考え】によって画用紙に直線を引くとき、直線によって分けられる長方形の個数から、縦・横それぞれにひいた直線の本数を求めることができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				25.9	73.3
			教科				49.8	85.0
			読み解く力				33.9	78.7
			数学全体				45.6	83.7

**平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（都調査）
中学校2年理科 各問題の正答率**

問題 番号	学習指導要 領の内容	出題のねらい	評価の観点				市正答率 (%)	都を100とした場 合の比率(%)
			関・意・態	思・表	技能	知・理		
1 (1)	第2分野 (1)ア(ア)	顕微鏡を正しく取り扱うことができる。			○		50.7	96.5
1 (2)	第2分野 (1)ウ(イ)	シダ植物の特徴を理解している。				○	71.8	93.2
1 (3)	第2分野 (1)ウ(イ)	シダ植物について関心をもち、科学的に調べようとしている。	○				91.1	98.6
2 (1)	第2分野 (1)ウ(ア)	花・葉・茎のつくりとその特徴を捉え、条件に基づいて分類することができる。			○		53.4	88.1
2 (2)	第2分野 (1)ウ(ア)	身近な植物について〈表〉を基に分類することができる。				○	47.7	86.5
3 (1) <実験2>	第1分野 (1)ア(ウ)	音の大きさと振幅を関連付けて理解している。				○	52.8	94.5
3 (1) <実験3>	第1分野 (1)ア(ウ)	音の高さと振動数を関連付けて理解している。				○	50.6	89.8
3 (2)	第1分野 (1)ア(ウ)	振動する条件を変えたときの音の高さや大きさを、振幅や振動数の変化と関連付けている。		○			38.6	87.6
4 (1)	第1分野 (1)イ(ア)	力の大きさと向きを表すことができる。			○		18.8	64.6
4 (2)	第1分野 (1)イ(イ)	面に働く力の大きさが同じである場合において、力の働く面積と圧力の関係を正しく捉えることができる。		○			31.4	73.2
4 (3)	第1分野 (1)イ(イ)	面に働く力の大きさと力の働く面積の関係について正しく説明することができる。		○			46.9	89.1
5 (1)	第1分野 (2)ア(ア)	ガスバーナーを正しく取り扱うことができる。			○		36.2	89.2
5 (2)	第1分野 (2)イ(ア)	水溶液の質量と溶媒の質量から、質量パーセント濃度を計算して求めることができる。			○		4.6	41.9
5 (3)	第1分野 (2)イ(イ)	2つの実験結果から、物質の溶解度の変化を捉えることができる。		○			39.7	81.4
6 (1)	第1分野 (1)ア(イ)	実験及びその結果から、気体の性質を捉えることができる。		○			48.3	83.8
6 (2)	第1分野 (1)ア(イ)	水素の発生方法について正しく理解している。				○	30.6	90.5
6 (3)	第1分野 (2)ア(イ)	気体の発生と性質に関心をもち、科学的に調べようとしている。	○				86.9	97.2
7 (1)	第2分野 (2)イ(ア)	示相化石について正しく理解している。				○	59.6	93.8
7 (2)	第2分野 (2)イ(ア)	逆断層ができる原因について理解している。				○	42.7	87.7
7 (3)	第2分野 (2)イ(ア)	観察記録を基に、断層ができた時期を考察することができる。		○			32.7	78.4
8 (1)	第2分野 (2)ア(ア)	火成岩の表面の組織の特徴を読み取ることができる。			○		38.6	81.7
8 (2)	第2分野 (2)ア(ア)	火山岩と深成岩の表面の組織が異なる理由について理解している。				○	30.6	68.0
8 (3)	第2分野 (2)ア(ア)	火山の形や噴火の特徴とマグマの性質の関係を関連付けて読み取ることができる。			○		36.7	84.6
8 (4)	第2分野 (2)ア(ア)	火成岩のでき方や、その特徴についての学習に基づいて、科学的に調べようとしている。	○				89.1	98.1
9 (1)	第1分野 (2)ア(ア)	<実験1>はプラスチックのどのような性質を調べたものかについて正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				47.7	85.7
9 (2)	第1分野 (2)ア(ア)	実験結果を比較・関連付けて、4種類のプラスチックの性質の違いについて正しく捉えることができる。	比較・関連付けて読み取る力				47.2	89.2
9 (3)	第1分野 (2)ア(ア)	<実験1>と比較・関連付け、4種類のプラスチックを見分けるための実験方法について捉え、解決することができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				18.3	70.3
10 (1)	第2分野 (1)イ(イ)	実験結果から、でんぷんを含む葉が入っていた試験管を正確に取り出すことができる。	必要な情報を正確に取り出す力				51.0	86.4
10 (2)	第2分野 (1)イ(イ)	「光合成によってでんぷんがつくれる」ことを確かめられる試験管の組合せを、比較関連付けて読み取ることができる。	比較・関連付けて読み取る力				13.2	79.7
10 (3)	第2分野 (1)イ(イ)	2人の行った実験結果が異なる理由について解決を図ることができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				43.7	85.5
			教科				47.1	88.2
			読み解く力				36.9	84.6
			理科全体				45.1	87.7

平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都調査)
中学校2年英語 各問題の正答率

問題 番号	学習指導要領 の内容	出題のねらい	評価の観点				市正答率 (%)	都を100とした場 合の比率(%)
			関・意・態	表現	理解	知・理		
1 (1)	聞くこと ウ	相手の発言に適切な応答ができる。			○		37.8	72.2
1 (2)	聞くこと ウ	相手の発言に適切な応答ができる。			○		70.9	92.2
1 (3)	聞くこと ウ	疑問詞のある疑問文に適切な応答ができる。			○		20.3	54.7
2 (1)	聞くこと オ	話を聞いて内容と会う写真を選ぶことができる。			○		31.9	85.5
2 (2)	聞くこと オ	会話を聞いて母親が今いる場所を聞き取ることができる。			○		51.4	87.7
2 (3)	聞くこと イ	図書館の放送を聞いて、何曜日に放送されているかを聞き取ることができる。			○		24.7	110.3
2 (4)	聞くこと イ	会話を聞いてペットの数を聞き取ることができる。			○		34.8	87.9
3	読むこと	理解できないところがあっても最後まで読み続けようとしている。	○				31.0	66.9
4 (1)	読むこと	場所を表す前置詞について正しく理解している。				○	45.0	77.2
4 (2)	読むこと	場所を表す前置詞について正しく理解している。				○	38.9	104.3
5 (1)	読むこと	動詞の現在進行形を用いた表現について正しく理解している。				○	68.9	90.4
5 (2)	読むこと	動詞の過去形を用いた表現について正しく理解している。				○	71.9	89.3
6 (1)	書くこと オ	自分の考えについて正しく書くことができる。		○			34.5	72.1
6 (2)	書くこと オ	自分の考えについて正しく書くことができる。		○			24.6	72.1
7 (1)	読むこと ウ	代名詞が指示しているものを捉えることができる。			○		41.5	78.4
7 (2)	読むこと ウ	まとまりのある英文を読んで、書き手の最も伝えたいことを捉えることができる。			○		70.8	91.5
8 (1)	書くこと イ	How many で始まる疑問文の語順を理解している。				○	71.9	90.6
8 (2)	書くこと イ	平叙文の語順を理解している。				○	83.9	93.1
8 (3)	書くこと イ	be動詞を用いた疑問文の語順を理解している。				○	74.3	93.1
8 (4)	書くこと イ	前置詞句を理解している。				○	80.9	94.0
8 (5)	書くこと イ	wh-＋名詞で始まる疑問文の語順を理解している。				○	43.7	86.7
9	書くこと	自分の考えや気持ちを英語で書こうとしている。	○				44.6	59.6
10 (1)	読むこと	まとまりのある英文を読んで、必要な情報を正確に取り出すことができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				42.7	83.8
10 (2)	読むこと	会話の内容とジョーンズ先生がまとめた表とを比較・関連付けて読み取ることができる。	必要な情報を正確に取り出す力				45.4	77.3
10 (3)	読むこと	文通相手として最もふさわしい生徒を選ぶことができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				38.1	86.3
11 (1)	読むこと	ベンが2日目に楽しんだことを正しく取り出すことができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				36.2	80.2
11 (2)	読むこと	2通の手紙の情報を比較し、2人の行動に共通していることを読み取ることができる。	必要な情報を正確に取り出す力				44.8	86.0
11 (3)	読むこと	2人の希望がかなうように、コースを作成することができる。	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力				17.5	89.9
			教科				49.9	84.7
			読み解く力				37.5	83.1
			英語全体				47.3	84.6

各教科の分析

国語

【平均正答率から】

- ◆ 平均正答率は 75.2%であり、都全体を 3.5 ポイント下回った。
- ◆ 全 21 問中、都全体と同率又は正答率が上回る問題は 4 問であった。

【教科の内容の平均正答率から】

- ◆ 教科の内容の平均正答率は 75.0%であり、都全体を 3.4 ポイント下回った。
- ◆ 「関心・意欲・態度」の平均正答率は 65.4%であり、都全体を 7.7 ポイント下回った。
- ◆ 「話す・聞く」能力の平均正答率は 90.8%であり、都全体を 2.3 ポイント下回った。
- ◆ 「書く」能力の平均正答率は 61.4%であり、都全体を 4.1 ポイント下回った。
- ◆ 「読む」能力の平均正答率は 63.6%であり、都全体を 1.5 ポイント下回った。
- ◆ 「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率は 79.1%であり、都全体を 3.4 ポイント下回った。

【読み解く力に関する内容の平均正答率から】

- ◆ 読み解く力に関する内容の平均正答率は 76.3%であり、都全体を 3.8 ポイント下回った。
- ◆ 「取り出す力」の平均正答率は 78.0%で、都全体を 3.9 ポイント下回った。
- ◆ 「読み取る力」の平均正答率は 68.5%で、都全体を 4.4 ポイント下回った。
- ◆ 「解決する力」の平均正答率は 82.5%で、都全体を 3.1 ポイント下回った。

【正答数分布から】

- ◆ 全 21 問の平均正答数は 15.8 問であり、都全体を 0.7 ポイント下回った。
- ◆ 正答数 0 問の生徒の割合は 0.2%であり、都全体を 0.1 ポイント下回った。

【各問題の正答率から】

- ◆ ① (4)「目的や場面に応じて、条件に基づき質問する」問題の平均正答率は 35.3%であった。

出題のねらい等		平均正答率
① (1)	目的に沿って話の要点を聞き取り、変更点について捉える。	81.5%
① (2)	目的に沿って話の要点を聞き取り、変更の具体的な内容を捉える。	93.3%
① (3)	目的に沿って話の要点を聞き取り、変更になった理由を捉える。	97.5%

- ★ ① (1)～(3)の「話す・聞く」の問題では、都の平均正答率を 100 とした場合、いずれも 90 を上回る正答率であったが、(4)では 70.4 と大きく下回った。質問をする上での条件には、既に説明されたことや変更点に関係のないことを質問してはいけない旨が書かれているが、誤答として、その類型に当てはまるものが東京都全体としては最も多かった。その原因として、自分で考えた質問項目が、すでに説明がされているか、変更点と関係があるかを十分に確認できていないためと考えられる。本問題を一つの題材として活用することも考えられるが、問題の指示に合った内容であることを確認する視点を、言語活動等を通して広めたり深めたりする学習を進めていくことが必要である。

- ◆ ②「同音で字形の似ている漢字を正しく書く」問題の平均正答率は、A【冒険】が 73.4%、B【検査】が 76.3%、C【実験】が 81.1%であった。

- ★ この問題は、「ある日の国語の授業での会話」という設定で、「字形の似ている漢字」について、先生と 2 人の生徒のやり取りが記述されている。漢字の指導では、組立や成り立ちに着目させ、部首の意味から使い分けができるようにさせたり、それぞれの漢字の意味から熟語の意味を捉えさせたりする指導を、授業の中に取り入れていく必要がある。

各教科の分析

社会

【平均正答率から】

- ◆ 平均正答率は 41.9%であり、都全体を 4.9 ポイント下回った。
- ◆ 全 23 問中、都全体と同率又は正答率が上回る問題は 2 問であった。

【教科の内容の平均正答率から】

- ◆ 教科の内容の平均正答率は 44.3%であり、都全体を 4.7 ポイント下回った。
- ◆ 「関心・意欲・態度」の平均正答率は 83.5%であり、都全体を 0.4 ポイント下回った。
- ◆ 「社会的な思考・判断・表現」の平均正答率は 45.1%であり、都全体を 4.7 ポイント下回った。
- ◆ 「観察・資料活用の技能」の平均正答率は 38.8%であり、都全体を 4.4 ポイント下回った。
- ◆ 「社会的事象についての知識・理解」の平均正答率は 35.9%であり、都全体を 6.7 ポイント下回った。

【読み解く力に関する内容の平均正答率から】

- ◆ 読み解く力に関する内容の平均正答率は 35.2%であり、都全体を 5.4 ポイント下回った。
- ◆ 「取り出す力」の平均正答率は 45.1%で、都全体を 7.3 ポイント下回った。
- ◆ 「読み取る力」の平均正答率は 31.6%で、都全体を 5.0 ポイント下回った。
- ◆ 「解決する力」の平均正答率は 28.7%で、都全体を 4.2 ポイント下回った。

【正答数分布から】

- ◆ 全 23 問の平均正答数は 9.6 問であり、都全体を 1.2 ポイント下回った。
- ◆ 正答数 0 問の生徒の割合は 1.3%であり、都全体を 0.4 ポイント上回った。

【各問題の正答率から】

- ◆ 2 (1)「日本の地域区分、都道府県名や都道府県庁所在地」についての問題の平均正答率は 19.1%であった。
- ★ 本調査における小学校第 5 学年の問題において、「東京都に隣接している県の名称・位置と、その地形・気候・交通及び特産物等の特色とを結び付けて捉える」問題の正答率は 26.5%、「東京都の地形、産業や交通、主な都市の位置」についての問題の正答率は 20.1%であり、小・中学校共通の課題が明らかとなった。小学校において、基礎的な事項を確実に身に付けさせるとともに、中学校において、意図的・計画的に既習事項に触れさせることにより、十分な知識の定着を図ることが大切である。47 都道府県の名称と位置を地形・気候・交通及び特産物等の特色と結び付けて確認できるよう、定期的な振り返りの学習を行う必要がある。
- ◆ 4 (2)「平安時代から鎌倉時代にかけての政権の変化についての理解」に関する問題の平均正答率は 14.0%、5 (1)「5 世紀ごろの日本の対外関係について資料から読み取る」問題の平均正答率は 33.6%、5 (2)「年表や資料を基に、7 世紀初めの日本と中国との関係を捉える」問題の平均正答率は 18.0%であった。
- ★ 4 (2)は「社会的事象についての知識・理解」、5 (1) (2)は「資料活用の技能」についての問題であった。都の平均正答率を 100 とした場合、本市の平均正答率はそれぞれ 58.2、79.5、63.3 であった。資料を読み取る問題についても、歴史に関する知識・理解を基盤として読み取ることができるようにする必要がある。一つ一つの用語をその他の出来事や人物と関連付けて理解できるよう、歴史の流れを全体像で捉えることができる授業の工夫が求められる。

各教科の分析

数 学

【平均正答率から】

- ◆ 平均正答率は 45.6%であり、都全体を 8.9 ポイント下回った。
- ◆ 全 30 問中、都全体と同率又は正答率が上回る問題は 1 問であった。

【教科の内容の平均正答率から】

- ◆ 教科の内容の平均正答率は 49.8%であり、都全体を 8.8 ポイント下回った。
- ◆ 「関心・意欲・態度」の平均正答率は 91.1%であり、都全体を 1.1 ポイント下回った。
- ◆ 「数学的な考え方」の平均正答率は 39.0%であり、都全体を 6.9 ポイント下回った。
- ◆ 「数量や図形についての技能」の平均正答率は 45.5%であり、都全体を 10.4 ポイント下回った。
- ◆ 「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率は 51.1%であり、都全体を 9.0 ポイント下回った。

【読み解く力に関する内容の平均正答率から】

- ◆ 読み解く力に関する内容の平均正答率は 33.9%であり、都全体を 9.2 ポイント下回った。
- ◆ 「取り出す力」の平均正答率は 47.6%で、都全体を 12.0 ポイント下回った。
- ◆ 「読み取る力」の平均正答率は 36.9%で、都全体を 9.2 ポイント下回った。
- ◆ 「解決する力」の平均正答率は 14.3%で、都全体を 6.5 ポイント下回った。

【正答数分布から】

- ◆ 全 30 問の平均正答数は 13.7 問であり、都全体を 2.6 ポイント下回った。
- ◆ 正答数 0 問の生徒の割合は 1.0%であり、都全体を 0.1 ポイント上回った。

【各問題の正答率から】

- ◆ 1 (3)「分配法則のある文字式の加法と減法の計算」問題の平均正答率は 57.3%、1 (4)「文字式を用いた情報の計算」問題の平均正答率は 50.2%であった。

1 (3)	$7x + 6 - 2(x - 1)$
1 (4)	$9a \times (-4a)$

- ★ 都の平均正答率を 100 とした場合、本市の平均正答率はそれぞれ 79.5、76.3 であった。小学校第 5 学年の同調査において、計算のきまりに従って、四則の混合した計算が正しくできる児童が半数に満たない状況であったことも踏まえると、計算の順序や基本的なきまり、とりわけ乗法や除法に関連する計算において、十分に定着していない状況が明らかである。考えられる誤答例からグループで話し合う言語活動を取り入れる等、生徒が自ら考えて取り組む授業を展開するとともに、定期的に既習事項を振り返る復習プリントを実施する等、基礎・基本の徹底を図る工夫が必要である。
- ◆ 7 (1)「相対度数を正しく求める」問題の平均正答率は 13.7%、7 (2)「度数の合計と中央値より小さい値の度数から、中央値と同じ値の度数を求める」問題の平均正答率は 1.1%であった。
- ★ 本問題にある「代表値」「中央値」はもちろん、「平均値」「最頻値」「相対度数」「範囲」「階級」等、用語の意味を十分に理解できていないことがうかがえる。その背景には、新たに現行学習指導要領から中学校で指導することとなった内容であることも関連していると考えられる。本問題を活用し、それぞれの用語を使って筋道立てて説明する等、言語活動を通して理解を深めさせることが大切である。

各教科の分析

理科

【平均正答率から】

- ◆ 平均正答率は 45.1%であり、都全体を 6.3 ポイント下回った。
- ◆ 全 30 問中、都全体と同率又は正答率が上回る問題は見られなかった。

【教科の内容の平均正答率から】

- ◆ 教科の内容の平均正答率は 47.1%であり、都全体を 6.3 ポイント下回った。
- ◆ 「関心・意欲・態度」の平均正答率は 89.1%であり、都全体を 1.8 ポイント下回った。
- ◆ 「科学的な思考・表現」の平均正答率は 39.6%であり、都全体を 8.4 ポイント下回った。
- ◆ 「観察・実験の技能」の平均正答率は 34.2%であり、都全体を 6.5 ポイント下回った。
- ◆ 「自然事象についての知識・理解」の平均正答率は 48.3%であり、都全体を 6.1 ポイント下回った。

【読み解く力に関する内容の平均正答率から】

- ◆ 読み解く力に関する内容の平均正答率は 36.9%であり、都全体を 6.7 ポイント下回った。
- ◆ 「取り出す力」の平均正答率は 49.4%で、都全体を 8.0 ポイント下回った。
- ◆ 「読み取る力」の平均正答率は 30.2%で、都全体を 4.6 ポイント下回った。
- ◆ 「解決する力」の平均正答率は 31.0%で、都全体を 7.6 ポイント下回った。

【正答数分布から】

- ◆ 全 30 問の平均正答数は 13.5 問であり、都全体を 1.9 ポイント下回った。
- ◆ 正答数 0 問の生徒の割合は 5.7%であり、都全体を 0.3 ポイント上回った。

【各問題の正答率から】

- ◆ 1 (1)「顕微鏡を正しく取り扱う」問題の平均正答率は 50.7%、5 (1)「ガスバーナーを正しく取り扱う」問題の平均正答率は 36.2%であった。
- ★ 都の平均正答率を 100 とした場合、本市の平均正答率はそれぞれ 96.5、89.2 であり、都の平均と比較しての課題としては、それほど顕著ではない。しかし、実験用具の基本的な取扱いについて、その定着が十分ではないことが平均正答率から明らかである。また、顕微鏡の操作については、昨年度の調査においても課題であり、その改善が十分に図られていないことがうかがえる。顕微鏡についてもガスバーナーについても、なぜ、そのような操作をする必要があるのかを操作と関連付けて生徒に理解させるとともに、その知識を十分に活用できる機会を設定するよう、実験での生徒の役割分担や教師による指導と評価の在り方について工夫をする必要がある。
- ◆ 5 (2)「質量パーセント濃度を求める」問題の平均正答率は 4.6%であった。
- ★ 「質量パーセント濃度」については、第 1 学年の教科書 122 ページから 123 ページまでの 2 ページにわたって取り扱っている。本問題の正答率が低い要因として、「質量パーセント濃度とは何かを十分に理解していないこと」、「水溶液の質量を溶媒の質量として計算したこと」などが考えられる。計算自体は小学校までの既習事項であることから、「質量パーセント濃度」とは何かをしっかりと理解させるとともに、質量パーセント濃度を求める問題、水溶液全体の質量を求める問題、溶質の質量を求める問題等、多様な事例から習熟を図るよう、授業の工夫を図る必要がある。また、「90 g の水に 10 g の物質を溶かした場合、質量パーセント濃度が 10%になる。」等、理解しやすい量に置き換えて提示することも必要である。

各教科の分析

英語

【平均正答率から】

- ◆ 平均正答率は 47.3% であり、都全体を 8.6 ポイント下回った。
- ◆ 全 28 問中、都全体と同率又は正答率が上回る問題は 2 問であった。

【教科の内容の平均正答率から】

- ◆ 教科の内容の平均正答率は 49.9% であり、都全体を 9.0 ポイント下回った。
- ◆ 「関心・意欲・態度」の平均正答率は 37.8% であり、都全体を 22.8 ポイント下回った。
- ◆ 「表現の能力」の平均正答率は 29.5% であり、都全体を 11.4 ポイント下回った。
- ◆ 「理解の能力」の平均正答率は 42.7% であり、都全体を 7.8 ポイント下回った。
- ◆ 「言語や文化についての知識・理解」の平均正答率は 64.4% であり、都全体を 6.5 ポイント下回った。

【読み解く力に関する内容の平均正答率から】

- ◆ 読み解く力に関する内容の平均正答率は 37.5% であり、都全体を 7.6 ポイント下回った。
- ◆ 「取り出す力」の平均正答率は 39.5% で、都全体を 8.6 ポイント下回った。
- ◆ 「読み取る力」の平均正答率は 45.1% で、都全体を 10.4 ポイント下回った。
- ◆ 「解決する力」の平均正答率は 27.8% で、都全体を 4.0 ポイント下回った。

【正答数分布から】

- ◆ 全 28 問の平均正答数は 13.2 問であり、都全体を 2.4 ポイント下回った。
- ◆ 正答数 0 問の生徒の割合は 0.3% であり、都全体を 0.3 ポイント下回った。

【各問題の正答率から】

- ◆ 6 (1) (2) 「自分の考えについて正しく書く」問題の平均正答率は、それぞれ 34.5%、24.6% であった。

(1) Do you like sports?

(2) Did you study yesterday?

- ★ 本問題は、「Yes, ~」か「No, ~」で答え、そこに理由や考えを加えて 2 分で書く問題である。問題では、解答のよい例と悪い例（同じ情報を繰り返すことや語句のみで答えること）について具体的に例示をしている。英語で話すことはできるが書くことができないのか、あるいは話すこともできないのか、さらには、日本語で解答することも困難であるのか、それぞれの学級における生徒の実態を十分に把握した上で、その対応を具体的に考える必要がある。本市の小学校 6 年間で実施している英語活動において、英語を使って話したり聞いたりすることが抵抗なくできるようになってきていることから、「聞くこと」や「話すこと」と「書くこと」を関連付け、コミュニケーション能力を授業の中で総合的に育成する必要がある。

- ◆ 1 (3) 「疑問詞のある疑問文に適切な応答をする」問題（聞くこと）の平均正答率は 20.3% であった。

<放送文> Where did you take this picture?

- ★ 質問に答えたり、相手の発言に適切に応答したりするためには、授業前後の挨拶やお礼の表現や、様々な種類の疑問文等に慣れる必要がある。様々な表現を聞くだけでなく、教師と生徒でオーラルインタラクションを実施することが効果的である。その際、単純に Yes / No で答える質問だけにならないよう、様々な疑問詞を使って問いかけるようにすることに留意する。また、生徒相互でコミュニケーションを行う活動を取り入れることが大切である。